

第4回 美里町総合計画審議会教育文化部会 議事録

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 年 月 日 | 平成27年10月11日(日) |
| 場 所 | 美里町駅東コミュニティセンター |
| 審議開始時間 | 午前9時00分 |
| 出席委員 | 羽生安美委員・長岡力男委員・佐々木勝男委員・手島牧世委員・青木英治委員 |
| 欠席委員 | なし |
| 審議終了時間 | 午後 時 分 |

審議開始

- 午前9時00分 開始 -

協議

羽生委員

部会長の指名により進行させていただきます羽生でございます。よろしくお願ひします。

本日、企画財政課から説明員の出席をいただいております。よろしくお願ひします。

前回の部会の確認です。お集まりいただいておりますお話しさせていただいたと思ひますが、最初の入りの部分で、皆さんから疑問点が出ましたので、今回町へ質問する項目をまとめさせていただきますので、本日はそちらについてお話しさせていただきます。

4番議事録署名人2名ですが、手島部会長と名簿順でわたくし羽生が署名人となります。

5、議事に入ります。

手島部会長

みなさんお早うございます。

前回ですが、教育文化部会として総合計画の理念や方向性と一致させながらということで、何点が疑問に思うところがありまして、紙面に質問、意見等ということで書かせていただきました。金曜日にメールさせていただいたのですが、先ほど渋谷教育総務課長から手元に来ていなかったということで、事前にお渡しする予定でした。大変申し訳ありませんが、今日を通していただくこととなりますが、よろしければ質問に沿いながらお話を頂戴したいと思います。また、いろいろな意見、質問が出ると思ひますが、そちらも対応いただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

早速ですが、カッコ1美里町総合計画案の疑問点について、企画財政課より説明いただきたいと思ひます。順不同で構いませんので、教えていただければと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

では、最初の美里町総合計画及び美里町総合戦略ということで、目的が違う二つの表題があることに関して、これはどういうことなのかお話しいただきたいと思います。

須田企画財政課長

総合計画と総合戦略二つの名前が出ていることに関してですね。今回策定する計画として、一つは総合計画、もう一つは、まち・ひと・しごと創生法で規定している地方版の総合戦略二つの位置づけに持っていきたいということですね。一つのものに2枚看板を使わせていただくということですね。その理由につきましては、総合計画一つでこれからの町づくりは十分やっていけると思ひます。その中で総合戦略策定も出てきますので、あえて二つを並べるというのは、皆さんご存知のとおり、国から地方、県、市町村へ交付金を交付するという事なのですが、その場合は総合計画ではダメなんですよ。総合戦略という名前も付けなければならないので、それをつけているということです。総合計画と総合戦略はどこが違うのかということになりますが、最終的には、全てこれからの地域の発展に向けた総合計画のことを総合戦略という名前に変えただけかなと、どこに力点を置くかの違いだけですので、その力点を置かれる場所が、我々がこれから取り扱わなければならない

重点課題と一致してますから内容はほとんど一緒なんだろうということです。俗っぽい言い方ですが、国からお金をいただくためには、このように二つの名前を併記しないとイケないということです。

手島部会長

そのところなんですけど、総合計画の中に総合戦略が入ってくるのであれば考えられないこともないのですが、総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法から来ているのはなんとなく意味は分かるんですが、それと美里町の総合計画というのは、総合戦略で同じ方向を向いているとしても、総合計画はもっと大きな含みがあるかと思われるんですね。そのためにどうしても、例えば学校教育が一番引っ掛かってくるんですけども、そちらのほうが美里町では考えていかないのかという、人口問題と仕事と子育てという、重点課題であるんだけど、それがイコール総合計画であるとかひずみが生じる感じがして、今回それを質問としました。

須田企画財政課長

手島部会長のおっしゃる通り、総合戦略に持続ある地域の発展ということを法律で謳っているのですが、その持続ある地域の発展というのは、すべてを包含しているのですが、最初に述べている二つに重点的に置かれるのではないかと質問ですよ。ですので総合計画と全てが一致しないのではないかとということですよ。どちらかということに含まれているという形でご理解いただいたほうが良いかと思います。前回の全体会議で阿部委員さんから出たのが、総合戦略の部分、ここで言っている一つ目と二つ目の狙いと言いますか、人口減少の問題、その関係を具体的にどのような施策でどのようにやっていくのか、オモテにしっかりと出していくという意見がありました。もしですよ、この答申の中にそのような意見が含まれて、町長に答申が来るのであれば、その意見を十分踏まえながら書き加えなければならぬかなと考えておりました。私の考えとしては、持続ある地域の発展としている限りは、総合計画に含まれてくるのではないかとと思うのですが、考え方によっては、1点目2点目をかなり強調していますので、包含されているという取り方でも間違っていないと思います。

手島部会長

これはやはりオモテに出さなければならないものなのですか。

須田企画財政課長

これを出さないと、かなり交付金の規模が概算要求を見ると最初に大風呂敷を広げた割には規模が小さいなど。具体的に言うと、今年は1700億なんですけども、来年は1080億になります。当初は地方には負担をかけずに、国が全て負担しますと言っていたのですが、来年からは半分半分でやりましょうという話になってきていますので、個人的に思うのは、今後尻すぼみになっていくのではないかと考えております。しかし一千万単位のお金ですので、使えるものは使っていきたいという考えです。

手島部会長

総合戦略のところの不安要素を抱えているのと、総合計画という柱は将来に向けて揺るぎないものであって欲しいので、例えばこれの中に、あとから出てくるんですけども、その件について触れている文面が一つも無いんですね。なので私たちからすると、なんなんだろう、なんで二つあるんだろうというのは、ずうっと追いかけてきます。これは総合計画と捉えていいんですね。全体として。

須田企画財政課長

総合計画として捉えていただいても結構ですし、総合戦略として捉えていただいても結構です。総合戦略の地方創生法をお読みいただくと分かると思いますが、とりあえず前面に人口問題が出ていますが、その後段は地方の継続的、持続的発展となっているんですね。ということは総合計画と変わらなくなってくるので、人口の実勢と地方の持続的な発展ということで。私は総合計画であり総合戦略であると考えております。

- 手島部会長 地方版総合戦略という形で、人口減少の克服と地方創生を目的としている。総合計画に関しては、各地方公共団体が振興、発展を目的としたもので、まず目的が・・・。
- 企画財政課長 地方創生とは何ですかということですよ。地方創生とは地方が将来継続的に持続的に発展していくことを言っているわけですから、総合計画の位置づけと変わってこないですよ。法律の第一条に目的を述べているのですが、その目的のところは地方創生を略して、まち・ひと・しごとの地方創生を略して意味を述べていますが、その意味そのものがこれからの地域づくりを言っています。第1条の地方創生の定義付けがありますので、そこを読んでいただければわかると思います。
- 手島部会長 概略というところで、目的、第一条、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに東京圏への人口の過度を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施する。というのが創生法の目的となっています。
- 須田企画財政課長 地方創生の定義づけをしっかりと押さえてほしいんですね。その定義づけを押さえると、総合計画と変わらないことが分かります。
- 手島部会長 どうしても私としては、総合戦略は総合計画の一部ではないかと思うので、その中で総合戦略という形で、と思うんですね。
- 須田企画財政課長 基本理念を全て読んでいけば全て包括されていますよね。町の位置づけとしてはその法律の目的を達成することを謳っています。法律を見る限り全てですね。
- 手島部会長 すいません、よく分からないので、しごと創生法について出しているものが・・・
- 須田企画財政課長 まず第一条にまち・ひと・しごと・創生という言葉が位置づけされているものがあります。地方創生の目的としては、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくためにやる訳ですよ。その条件としては、国民一人一人が夢や希望を持つということです。そしてやることは、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成が一つ、二つ目は地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保、三つ目は地域における魅力ある多様な就業の機会の創出を一体的に推進することを地方創生と定義づけています。
- 手島部会長 その文章は何の文章でしょうか。
- 須田企画財政課長 これはまち・ひと・しごと創生法の第一条の本文です。その中で3つ言っているんですけども、先ほども言いましたが、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成が一つ、二つ目は地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保、三つ目は地域における魅力ある多様な就業の機会の創出を一体的に推進することを地方創生と言っているんですよ。その目的は将来にわたって活力ある日本社会を維持していくんですよ。市町村も県も日本社会を構成する一員ですので、これを地方創生と位置付けているので、私は総合計画と変わらないと考えております。国の捉え方と市町村の捉え方、そしてこれから地方分権、中央主権が進んできてますが、国は国だと思っただけですよ。国の見方、宣伝の仕方、伝え方だと思います。しかし受ける方は受ける方として、市町村は市町村として受けるべきだと思います。我々が守らなくてはいけないのは、法律は守らなければいけませんから、国がどう言おうと拘束力はないわけで。ただし、言い方が悪いですが、国はお金で市町村を拘束しているというか、動かしているということがあるので、それには従わざるを得ない

んですよ。我々は法律を守らなければいけません。その法律さえ守っていけば市町村として市町村のためになると。

手島部会長 総合戦略の中としては、それは大丈夫だと思うんですね。ただ美里町における総合計画としての理念としては、やっぱりギャップを感じています。

須田企画財政課長 総合計画をどう定義付けていますか。

手島部会長 定義付けるというよりは、まずは町でどうして総合計画策定を行うのかということをお聞きしたいと思ったんですね。

須田企画財政課長 計画の位置付けにあるように、まず総合的に行政運営をしていきたいと考えるからです。もうひとつは計画的に行政運営をしていきたいと考えるからです。その狙いは最小の費用で最大の効果を生むために効率的な行政運営をする。そのための計画を策定するということです。

手島部会長 総合計画そのものが法的な、美里町として認められている総合計画なのかというか・・・。

佐々木係長 すいません、部会長さんだけの発言になっているんですけど、これは部会なので皆さんの発言を聞きながら話を回してもらって、部会長さんはそのまとめ役ということで、部会を成り立たせていただきたいと思うんですけど、皆さんのご意見も聞いていただいでよろしいでしょうか。

(傍聴者から発言あり)

須田企画財政課長 町の位置付けとしては、条例で作成するという位置づけはしておりません。総合計画を策定する場合は審議会を設置し諮問することができます。

手島部会長 この総合計画の意味合いを含めて、私たちが審議したことが単なる一つの案に過ぎない、一生懸命やって出されたもの全然関係ないという取扱いになるのかどうかお聞きしたいのですが。

須田企画財政課長 前回の全体会でも言いましたが、町長は諮問しているわけですよ。それで審議いただき、諮問するという事は、自分はこう考えるがどう考えますかということに対して答申していただく、皆さんから意見をいただく時に、意見を求めるというのと諮問するということと二つあるんです。意見を求めること以上に重く皆さんの意見を尊重するという場合、諮問機関という条例できちんと位置づけをしてやっております。会議を開催し、出来上がった案に対して町長は尊重しなければならないとなっています。もう一つ、町長はこれを決めたわけではなくて、一つの案として、今この段階でこう考えているのだけれども、これに対して皆さんどう思いますかと諮問しているわけですので、上がってきた答申に対して、そういう意見かと、このようにある程度尊重しなければいけないと、それを尊重した上で、もう一回審議をし直そう、あるいは行政委員会に諮ると。その中で最終的に決めていきます。尊重とは全て反映するという意味ではないということですので、この部分は勘違いしないでください。町としては上がってきた意見に対して当然内部で調整し、もう一回町民の方々へパブリックコメントを実施します。ですので今回の答申が全て反映されるという事ではないので、勘違いされないようにお願いします。

手島部会長 大きな問題というところで、総合計画と総合戦略というところなんですね。前半のところは全て総合戦略のための目的とか計画として読み取れていて、その中の重点項目だよと。ただ総合計画と

しての町が何のために総合計画を行うのかといところで、総合戦略をなぜ行うのかといところが強いと思うんですね。なので、総合戦略に力が入っているというのはいかがかと思いますが、総合計画としての、子供たちから町民全てを網羅しているという中で・・・

須田企画財政課長

部長さんがおっしゃりたいのは、総合戦略が入ってきているから、その部分が強く出ていて、それ以外の部分が落ちているのではないかということですね。確かに我々の観点としては、今までいろいろ意見を聞いたり、住民懇談会や住民意向調査などの結果を見てみると、やっぱり雇用なんですよね。雇用に関して今までの10年間を振り返ると、何もやってこなかった、やっても失敗し成果が出ていない、産業振興が全然進んでいないということで、これ町として大きな問題です。これから税収も下がってきます。町の財政も苦しくなってくるので、地域経済をなんとか立て直さなければいけないというのは、地方創生がなくても我々としては重要課題であると認識しています。人口の減少問題は我々も前計画の段階からきちんと推計をして、こういう問題が将来来ると分かっていたのであれば、もっと前の段階から言っているんですけども、今回国が騒いでいるから町も人口減少問題に特化しているような形ですので、それ以外の部分は確かに薄くなっているのかもしれませんが。そう言われればその通りだと思います。もしそういうことであれば、審議会で意見を出していただければ、人材育成というか教育面に力を入れていくような内容に変えていきたいと思えます。内容が固まっているのでこれに少し手直ししてくれという事ではありませんので、大きく変えるところは変えていただいて結構です。ただ私がここで説明しているのは、これを町として作成した段階でどういった考えで作成したかということです。

手島部会長

例えば、今の人口問題に関しても関連してくるのが、学校再編ビジョンという名前が出てきたり、全部に関わってくるために、やはり単に総合計画として全体を見据えた内容、総合戦略はやはり期間的にも一部の戦略でしかないのかなと。

須田企画財政課長

先ほど言いましたが、町にとって国からくる交付金が・・・

手島部会長

総合計画の位置付けですね。美里町として総合計画をどこに位置付けているのか、そこから各種計画というものがあると思うんですね。その中の一つに総合戦略が入ってくるのであれば、その計画の一つだという感じに受けるんですけども、今のところイコールという感じが強いんです。ただイコールにはなりえないと。

須田企画財政課長

部長さんが言っているのは、総合計画があって部門別計画の一つであるという考えですね。例えば、定住とかあるいは産業振興などの計画だけであれば部門別でいいと思います。しかし国ではその辺を強く言っていますけども、法律を読む限りはそれ以外の全て含まれています。しかし国では、これとこれだけを書いてよこせばいいよと、書くべき素材には自分たちが言いたいことだけ含めてますけども、それ以外のものを書いてはだめだとは書いていないんですよ。法律を読む限り全てです。そこが国が地方に伝えようとしているものと、地方が受けたときの受け止め方ですよ。どう受け止めるか。ですから私は総合戦略の総合という意味は全てであると考えます。

手島部会長

まち・ひと・しごと創生法をやっていくために、総合的に見ていくと地方創生を行うための総合的という意味合いの総合だと・・・

須田企画財政課長

地方創生というのはなんですかということ、地方創生をしっかりと受け止めないと地方創生全てですよ、ここで言っているのは。

- 手島部会長 でも、全てという場合には、そうしたら逆に総合計画と言う看板はいらなくなるのかなと・・・
- 須田企画財政課長 そうなんです。総合計画と言う看板もいらなくなってきました。総合戦略という一つの看板でもいいのです。良いんだけど、今まで総合計画というものは町民の方々に根付いているし、総合計画をもって、それをマスタープランとして部門別に関わってくるという今までの体系があるでしょう。この体系を国が総合戦略という単語を使ったからといって、入れ替えるということが良い事かどうかという話なんです。我々はあくまで総合計画だけでいいんですよ。ただし総合計画という名称だけでは、交付金に縛りが出てくるので、二つの名前を掲げたと。
- 青木委員 前回までは総合戦略という言葉は無かったですよね。急に出てきた看板ということですね。
- 手島部会長 戦略という名前を付けないと交付金なんかには該当しないということですか。
- 須田企画財政課長 そうです。総合計画ではダメですよ。新たに総合戦略めいたものを作りなさいと。策定が同じ時期にぶつかるところは、それは同じ扱いでも交付金の対象とするということです。あえてですよ。総合計画なら総合計画を作りましょうと。そこから抜粋して別の審議機関を作って審議するという必要はないので、逆に総合戦略をオモテに出してしまうと、審議する方も住民の方々も今までの総合計画のイメージと混乱するので、そうではなくて今までの総合計画を作り直しましょうと説明したほうが分かりやすいということです。
- 手島部会長 それがあるがために、意味が分からないので、これは総合戦略ですよ。そのためのまち・ひと・しごとをやっていきたいと思いますという内容であるならば・・・
- 須田企画財政課長 その内容がそれに強く出ているからですか。
- 手島部会長 中に入っていくと、将来像とか全てですね。例えば主要課題というところも産業、人口、子育て、教育ですね。それが例えば「産業が発展し、人が集い、賑わいのある生き生きとした暮らしができるまち」というところに関して、私たちは社会教育、学校教育、文化、社会体育がこの方向に行くというのは、やはり無理が生じるので。例えば地方創生の総合戦略の考えであって、これは産業とかそちらのほうでは、非常にいいと思うんですね、人口問題とか。そこから大きく外れているのは私たちの教育文化部会だと思います。そういった意味ではこれが含まれる形で、もっと大きな課題、目標に向かったほうが良いんじゃないかなと。
- 須田企画財政課長 そのとおりですね。確かに言われるとそのとおりです。中身に入るとどうしても総合戦略が色濃く出ていますね。その辺で意見を出していただくと、ある程度子育て、教育となっていますけども、教育だけ独立して主要な課題にもって行って、あるいは将来像の中に、確かに産業を発展させたり、人が集い賑わいのある生き生きとした町づくりをするには、教育も必要なんですけども、教育という観点を一つ入れるとか、そういう意見を出していただければ、もしこういう将来像はどうですかというものを示していただければ、それに合わせて町長も再検討しますので・・・
- 手島部会長 今日の質問の内容と前後するんですけども、前回のところでは、基本理念のところなどもそうなんですけど、将来像のところでは、前の将来像ではだめなのかというところが出ています。
- 須田企画財政課長 パブリックコメントでいただいた意見と重複しますが、前の将来像もすごく良い将来像だと思います。しかし合併して今年10年目ですが、10年間やってきて、また新しい計画を作ろうという

時に同じ将来像を掲げてやるということも一つだと思います。ただし今回考えたのは、ある程度十分ではないにせよ、その将来像に向けて努めてきて、一定程度その成果に近づいてきたのではないかと考えていますので、より課題が重点化しているほうに将来像を向けていこうという10年ひとくくりで将来像を新しくしても良いのではないかとということです。ですので皆さんのご意見が、今までの継続のほうが良いのではないかとこののであれば、ご意見として出していただいても結構です。あれは二つの町が合併したと意識した感じのものなんですよ。いつまでもそれを引っ張るのもどうかと。合併して美里町は一つなんだという上で、あえてまた「共に」と入ってくるのはどうかというところで引っ掛かるんですよ。ですので新しい表題を作ろうということになりました。将来像が、もし内容的に不備であれば、このように直した方が良いという意見を出していただければいいと思います。町としては新しいものにしたいという考えです。

手島部会長

今日の2枚目の資料の質問の、20ページ美里町の将来像2040というところに、この間出た質問を書いているんですけども、先ほど言った内容、教育の目標としても使えるものにしてはいいかかなというところと、現行の将来像の「人つどい、共に築く、幸せと豊かさを実感できる町」というところに対する達成度とか評価とかそういったものを聞いて、今回の将来像を聞いたかかなと思います。「現行の将来像のままでは？」といったところでは、下の「他の町からの移住にも影響しているものであり、町が何に力を入れているかを知ることができるので直して欲しい。」と。実際的に美里町に来るといったときの指標の一つになっているということも伺いました。まちが子育てに力を入れているから来ましたという委員さんの力強い発言をいただきまして、やはり何を見るかと言ったら、ホームページとかから美里町とはどんなところだろうということを抱くそうです。その時に、やはりこういったものとか、学校教育、子育てのところを見て今回美里町に移住を決めたという率直な意見をいただきました。それだけ影響力が強いものだと思います。ですので、まるっきり同じではなくても、例えば、幸せと豊かさというところは、本当に一人ひとり小さくてもお年寄りでも・・・

須田企画財政課長

部会長さん、ここで良い悪いとかという議論ではなくて、先ほども言ったように、この部会の中で話していただいて、出してもらえばいいんです。答申の中に。そのような意見で今のような例えば、子育てが充実しているとかそういうご意見を部会として審議会に出していただければ、町としても先ほどお話ししたように尊重しますので、尊重した上でまた作り直すということになりますので、中身の良い悪いはここでは・・・町が作ったものについての説明はいたします。

手島部会長

結局こちらの30ページまでの内容というものを把握しないと、その方向に向かって施策を検討するんですが・・・

須田企画財政課長

教育を無視した将来像ではなくて、産業が発展、生き生きとした暮らしができる町づくりという、その根底は、町民の命を守ると健康を守るとするのが一番の根底であり、そしてもう一つは人材を育成するという教育面と安心安全な生活を築くというこの3つが根底なので、これについてはあえて出さないで、これらを出すと総花的なものになるので、それを踏まえた上でどういう町を目指すかを出していこうというのが今回の文言づくりでした。「生き生きとした」とあるんですが、ここは福祉的な部分で、70歳80歳90歳になっても、皆さんが一人ひとり生き生きとして社会に参加していただいて、町を作っていこうという意味で「生き生きとした」としたんですけども・・・

手島部会長

逆に今のを出していただいた方が分かりやすいと思います。

須田企画財政課長

産業が少し強かったかもしれませんね。ここを少し見直して、もう少し夢があるというか、その

ように考え直したり、あるいは、逆にこういう案が良いのではないかというものを出していただければ良いと思います。

手島部会長 このようなものが良いという意見を答申の中に出せば検討も可能だということですね。

須田企画財政課長 そうですね。当然検討します。必ずこれでやってくださいというものではありませんので、今の段階でこの案のように考えていますが皆さんの意見をお願いしますということで、意見を出していただければその意見を尊重します。

手島部会長 これだけ見ると、産業に向けてどうにかしないとイケないのかなという印象が強かったので・

須田企画財政課長 我々は「まち・ひと・しごと」ではなく、まず「しごと」があって「ひと」が来て「まち」が出来るということで、「しごと・ひと・まち」と順番が逆ではないかと考えています。その流れでこれを作っています。

羽生委員 この下に今の説明が明記されていれば、そういう意味合いで目標にしたんだなと捉えることができたんですが、これだけポンと出てきたのでこれは何だろうという疑問を感じました。

手島部会長 平成19年の形が見やすいです。注釈も多いし分かりやすいかなと。ここがドーンときてどうすればいいんだろうというところがあります。

 ということでお話を受けていただけということですので進めていきたいと思います。

 まだ総合戦略と総合計画がよく分からないので、どなたかお願いします。説明の中では総合戦略というのは主である、総合計画は無くてもいいということまでは出たんですが・

須田企画財政課長 総合計画は無くてもいいというのではなく・

青木委員 看板が変わっても構わないんだけどという意味ですね。

須田企画財政課長 そうですね、看板が変わっても構わないんですが・

手島部会長 これは中にあったんではダメなんですか。総合計画があって、その中で私たちは総合戦略としてこれを進めて行きますというのが中に入ってくるのはダメなんですか。総合戦略をやりますということをどうしてもオモテに書かなければならないのですか。

須田企画財政課長 先ほど言った国の交付金がどのような方向に動いていくかまだはっきりしないんですね。第三篇の総合戦略というものを設けてそこに書いてしまうと、その範囲しか対象にならないということになりますので、国は対象を狭めたり広げたりしますので、仮に広げた場合にどれにもぶつけて行けるようにこの形でもっていけば、この冊子に載っているすべてが対象となると・

手島部会長 ただ、先ほどのお話だと、危ない橋のような・

企画財政課長 危ないというか、たいして期待できない感じではありますが、ただ少なくとも5年間はその交付金は続けるということで、そう考えるとある程度広げていた方がいいかなと。

手島部会長 5年間だから計画の括りを5年とするというのは、ここから出てきたんですか。

須田企画財政課長 それは全く関係ありません。総合戦略は今年から5年なので。総合計画の5年というのはこれまで10年で策定した反省から5年としました。10年という時代の流れは凄く早いので、今から10年先のことを決めるというのはかなり危険ですので、とりあえず5年先まで考えましょうというのが今回の考え方です。さらにこの計画で行ってもいいのであれば、さらに継続しても良いでしょうし、とりあえず5年で区切りたいということです。たまたま地方創生では今年から5年となってますけども、町としてはそれとは関係なく、最初から10年は長すぎると。前は平成18年に作って9年間ですね。なぜ9年間かというと、平成19年から始まる計画で、合併の前の年に建設計画を作って、合併した18年から27年までの10年間の建設計画でした。その10年間の建設計画がありながら、総合計画は5年でとはいかないので、周期を建設計画に合わせるために9年とし、途中で見直しをしましょうということで中間見直しを実施しました。どうしても5年で社会の情勢は変わりますので、10年は長すぎるという気がしますね。一番いいのは10年20年までの中期計画で、短期的な3年、4年、5年の期間に分けた形の計画であればいいんですけども、そこまで作れる時間もないし、少なくとも5年でも我々は長いなと思っているんですけども、社会の変化と言いますか、経済状況の変化が特に最近、国のほうの動きがすぐに変ってくるので・・・。

手島部会長 見やすさとしては先ほどお話しした総合戦略というものを出示してもらおうと多分分かりやすいです。

須田企画財政課長 別個にということですね。

手島部会長 はい。そうすると私たちはずっと総合計画、総合計画と言われて、総合戦略と言われて、でも総合戦略は表に出ないから総合計画があると言われても、ここでさえゴチャゴチャになるのに、町民に行ったときにはもっと訳分かんないと思います。私の理解不足かもしれないんですけども、理解しづらいですね。

須田企画財政課長 それを含めて審議会の答申として上がってくれば、私のほうで対応します。

佐々木委員 それに関連して、総合計画・総合戦略という関係で、総合計画案の20ページから23ページに、大きな柱が3つと、それを支える取組の方向性として5つありますね。これの図解化ですね。今の段階でどのように考えているのかその辺お聞きしたいと思います。

須田企画財政課長 並び方、順番がうまくないので、並べ方を今変えています。同じ内容ですが並べ方を変えて、次につなげる言葉をもっと少し分かりやすく、あるいはこの下に説明を加えるという形で作り直しをしています。

佐々木委員 立体的になった場合どのように見えるでしょう。

佐々木係長 基幹事業として教育であったり産業であったり福祉であったり下支えとなる基幹事業というのはそれぞれあることは皆さんご存知のことだと思います。図解した場合それがピラミッド型になるのかどうなるかまだ分かりませんが、関わり合いの部分でうまく表現できたらと思っています。

佐々木委員 関わり合いということでは、33ページからのところですが、政策そして施策がぶら下がっています。私の頭のイメージはですね・・・

手島部会長 準備される間に、前回こちらのほう改訂版のときに、平面的なところから今は立体化しているの

ではないかということで、佐々木委員さんから大変貴重なご意見いただいています。ただそれをイメージとして形として持ってきていただいているようですので。

佐々木委員

(紙コップを取り出し立体的イメージを説明)

3つの柱というのは、私はこういうふうに考えます。将来像を支えるこの柱の部分がこれで。その柱のそれぞれのところには当然22ページ23ページのもので、ここのところにそれぞれ入ってくると。この中には31ページからの具体的に行う論議していかなければならないところの、各章の政策、施策としてはどうなっているのかというふうにして、それがここの範疇の中に、これを高める、盛り上げていくためには中身がこれでいいのかと、これがこういうふうにして上がっていくのかということを取り組んでいくと。そのための検証の仕方というのは、当然そこに方法と検証の仕方というのはセットできますよと。そういうことが私たち自身も実際に生活の中で、取り組んでいく中で、これが盛り上がっているのかと。これがエキスとしてこちらに入っているのかと。そういうことです。一つの考え方としてこれを図解して私たちも考えて、これからいろいろ説明していくためには、何か立体的な物があったほうが良いかなと思いました。

佐々木係長

この3つの達成状況を測る部分で、国からはKPI、Key Performance Indicatorと言いますが、この達成目標がこれくらいだよと、それを測りながら5年間進めてくださいという数値目標が定まっております、それをやりすぎる目標でもなく、できない目標でもなく、背伸びすれば必ず届くような目標を定めながら、今後5年間進めて参るといような手法になって参ります。同時にそれぞれの施策ごとに目標指数を定めているんですね。現行の計画書の時からですね。各施策に目標値を定めているのは珍しいということにして、KPIがそれぞれの施策にぶつかっていると、あることはあるんです。大きいプロジェクト3つに対しての大きい数値目標を改めて定めなければならないというような仕組みになっています。

手島部会長

大きなところからまだ進んでいないんですけども・・・

須田企画財政課長

まだ全然固まっていない状況ですので、これに対して皆さんのご意見が上がってくれば、きちんと尊重していきますから、できればここに入っている説明を中心にお話ししていきますので、良い悪いという話ではなくて。

手島部会長

今直している問言葉が途中であったんですが、案のほうに手入れをしているのかなと。

須田企画財政課長

前回の全体会でお話をして、各部会や委員さん個人から流れが悪いですとか、分かりにくいとか意見がありましたので、もう少し分かりやすい表現にするということで、中身は変えないのですが、流れを若干表現で加筆をして出します。

手島部会長

実は最後に私聞こうと思っていたのが、前で申し訳ないんですけども、パブリックコメントを受けて、その採択の有無というのを見させていただきました。これは「有り」ということは、修正しますという文面とかありますよね。ということは直ったものはいつ来るんだろうと思っていました。

企画財政課長

審議会に諮問している内容は、9月13日に諮問した内容で審議会の中で審議していただきたいと思えます。修正が必要なものに対して町として修正を加えていきます。大きな内容変更はないと思えます。いただいた意見は、もう少し説明を加えるべきじゃないとか、順番が逆ではないかといったものになります。

- 手島部会長 前回お話しが出た内容ともリンクしているところもあるので、重複するかもしれないんですけども、説明していただければと思います。
- 改めてよろしいでしょうか。この順番で初めてよろしいですか。今日の資料のほうなんですけど、質問事項の。左側にページでやってきました。まず二つの表題というところから始まりました。もう少し総合戦略というところを具体的に分かりやすくというところを、私たちから多分今後望んでいくとは思われます。今日は結果という形にはしませんが、その形で次々に行きたいと思います。ページ数があると、実はこれも会議もしやすいんですけども、ページ数が無いので、絶対ページは入れた方が良くないかと。多分最終的には入ると思うんですけど。
- 佐々木係長 もちろん入ります。案の目次にページ数が入ってなかったということですね。
- 手島部会長 そうです。はい。
- 佐々木係長 今後の編集の関係なども考えまして、表紙を含めてこういう絵が良いんじゃないかといった意見もあるかもしれません。1ページ目から全て原稿という取扱いで考えていただきたいと思います。目次にページ数が入っていなかったことについてはお詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。
- 手島部会長 その説明が最初に頂ければ良かったかなあと。もしかして落ちてるんじゃないか、落ちてるんじゃないかと、見たときに思います。
- 次の意向調査結果ということで、意向調査結果が後ろの方にあるのは分かるんですけど、前の段階で項目が振ってあるんで、こちらも項目を振るのか、それともお渡ししていただいた住民の意見とか、そういったものが審議会の資料でお渡しされたものがありますよね。そうしたものは細かいものは入らないということですか。調査票とですね。文面が入ってきているのがありますよね。あれは第1回ですか。資料9。
- 佐々木係長 それはですね、資料版として別冊になるわけで、計画書にはこの部分は入らないということと考えていただきたいなと思います。これは審議を進める上での参考資料ということで皆さんにお渡ししたものでございます。お渡しした資料すべてが計画書に載るというわけではございませんので、ご了解願いたいと思います。
- 手島部会長 調査結果としては後ろについている部分ということで。
- 佐々木係長 3ページ4ページくらいのもんですけど、最低これくらいは載せておくべきだろうということで載せております。
- 手島部会長 町民の声を聞くと言っていたので、多分私もそうなんですけど、グループインタビューとかいろんなところでお話したものが、反映されているのかな、載っているのかなと多分お話しした人たち、何百人といった人たちとお話してると思うんですけど、そのへんの声が反映しているのが見えると良いのかなとか思いながら、これだけで終わってしまうのかなというのも含めて設問が出てくるのかとか。もしかしたらもっと記載するんじゃないかということで、この空欄のままで終わってしまうんでしょうか。7ページになります。総合計画案のほうで進行させていただいております。
- 佐々木係長 こちらはですね、この下に載るわけではなくて、「はじめに」や「人口ビジョン」と同じように、ここには住民意向調査が載りますという区割りだけの表示になります。ここに詳細なものは出ませ

ん。

手島部会長　ここに例えばその何とかといって、何ページっていうのは出るんですね。149ページっていうのは出るんですね。ここは空欄ではないということですね。ここに入るということですね。

佐々木係長　そうですね。

手島部会長　では、「はじめに」というところで10ページ、ここが終わったら休憩を取りたいと思います。「なぜ総合計画が必要なのか、美里町では総合計画をどのように位置づけたのかを説明する必要があると思うが、無いのはなぜか？」「趣旨が必要であると思うが無いのはなぜか？」「美里町総合戦略と一緒にであるというのはどういう事なのか？」先ほどとは重複した内容にはなるんですけども、序章という形で一番初めに策定されたところに、策定の趣旨ですとか位置づけが入っているのですが、そういう意味で、このところの「はじめに」というところが美里町の概要の前に、先ほどの内容を含めたものがあると良いと思うんですが、それが無いっていうところで、趣旨がないというところで説明していただければと思います。前回だと序章で策定の趣旨というのが入ってきています。そうするとこれは何をやるのかということをご自分で。美里町の概要から入ってしまっているの。

須田企画財政課長　概要から入る入り方もあれば、計画の趣旨から入る入り方どっちがいいのか。部会長さんの意見としては主旨から入った方が良いんじゃないかということですね。

手島部会長　前回策定されたものと、比べていくときに、まるっきり違っていると比べると大変なので、これを活かしていただいて、反省を踏まえて今回の計画があるのではないかと思うので、全然違う形になると、どこどこを比べるのかということがかかなり難しい感じがしました。

須田企画財政課長　前回と同じ流れでもっていったほうが見やすいのではないかと思いますよ。前回の計画の構成などは特に意識しないで作ったんですけども、最初に町の概要から作ったんですけども、どっちが良いのかなあ。皆さんどうですかね、最初に町の概要があった方が良いのか、なぜ計画を作成するのかというのが最初にあった方が良いのか、どちらも有りだと思えますよ。

手島部会長　なんで要るのかというのがあって、そして概要があって課題が出てきて。

佐々木係長　先ほどお話があったように、将来像があってそういった面で町に人が来るんだというお話があって、もちろん住民の方々にとってはどのような位置づけでこの計画があるのかということが大切であって、でも今は情報化社会の中でネットなどにもこの計画書は出ています。その時に計画の位置づけから入るのか、それとも町の紹介から入るのかということもありますし、そこで美里町というのはこういう町なんだなという入り方もありますので、それはちょっと検討して・・・

須田企画財政課長　前回と同じ流れで行った方が分かりやすいということですよ。

手島部会長　人は初対面の人とあって3秒から5秒でその人を認識すると言われてはいるんですけども、一番初めのキャッチフレーズとかというのが重きを置いているところがダウンとくるのがインプットされやすいと思えますよ。これだと面積と人口・・・

須田企画財政課長　最初に数字だけが出てきますからね。

- 手島部会長 何をやりたいんだというのが出た方が、多分この町のイメージは分かりやすいかと。そこから、じゃあどんな町なんだろうと。
- 須田企画財政課長 どっちも有りですね。ただ前回と同じ流れのほうが分かりやすいんじゃないかというのは、確かに一つの案でもあるし、あるいは今回のように概要から入るのも一つの方法だろうし。こちらとしては別にどうのこうのという考えは無く、まず概要から入ったということで。ただ概要は数字が出てきているだけなので、あまり親切ではないので、分かりやすくしていくということで。
- 佐々木係長 今回は自己紹介から入ったという感じで見ていただければと思います。
- 手島部会長 ただ、文面であるのと数字だけであるというのは、全然イメージも違うし、受け取る方も硬いと言えは硬いかなあと。
- 須田企画財政課長 全部は書けませんけども、二つの町が合併して今の町ができたということも必要でしょうし、鳴瀬川と江合川に挟まれた水田農業が盛んであることと、小牛田駅が交通の要衝として栄えたというところでしょうね。
- 手島部会長 せっかく今良いお話をしていただいているので、それが盛り込まれれば良いんじゃないかなと思います。
- 青木委員 全体会議でも推移が分かるような資料を付けてほしいという意見も出てましたよね。それを検討していただいているんじゃないかと。
- 手島部会長 この「はじめに」というところで、10分くらい休憩を取りたいと思いますがよろしいでしょうか。
(「はい」の声あり)
～休憩(午前10時10分)～
～再開(午前10時20分)～
- 手島部会長 続きまして11ページに行きたいと思います。
美里町行財政運営の基本理念というところでは、まず総合計画の理念が必要なのではないかと、安定した行財政の安定とは何か、何をもとにして基本理念ができたのかなどの意見がありましたので、説明をお願いいたします。
- 須田企画財政課長 基本理念ですね。
- 手島部会長 行財政運営の基本理念ではなく、美里町総合計画の基本理念が必要なのではないかとということです。
- 須田企画財政課長 例えば、計画の理念とはどのようなものを考えているのでしょうか。位置づけとはまた別ということですか。
- 手島部会長 (現行計画の) 将来像はこれですよね。基本理念が「一人ひとりが輝き、ともに生きるまちづく

り」というところで、このようにやっていきますよとなっています。これ全体の見えるというところで・・

佐々木委員 結局これはキャッチフレーズなので、どのような理念からこれできたのかを聞きたいということですね。それがあと次に出てくるのが行財政運営としてこういう理念が出てくるだろうと。これはどこから出たのかということ。

須田企画財政課長 これからの町づくりに向けた理念ですね。

手島部会長 はい。

須田企画財政課長 前は協働ということで、住民と行政が力を合わせてやっていくということでしたね。その継続が焼き直しでもいいので、あってもおかしくないですね。それでは考えてみましょう。答申の内容に入れていただいて構いませんので。

手島部会長 「安定した行財政運営」の安定の意味が分からなかったのですが。

須田企画財政課長 これは行政資源というか人もそうでしょうし一番はお金もそうなんですが、これらが常に安定しているというか、金がない、あるということで一喜一憂するのではなく、この言葉通り安定しているということなんですよ。

佐々木委員 ゆとりと充実ですか。

須田企画財政課長 そうですね。ゆとりを持っていたいんですよ。人も金も。

佐々木係長 ここで言いたいのは、今までどおりの行政サービスの維持を保っていくためには、今のお金が必要になってくると言う意味合いで、乱発してもいいんですけど、皆さんお住まいの方々に、我慢を強いられる時代が必ず来るといったときに、それをできるだけ先延ばしにするとか、もしくは、そういったものに対して、これを大事にしながら、必要最低限使えるものは使うと、ただ堪えるものは堪えるといった皆さんの生活がこれまでと変わらないようにするためには、こういう心掛けも必要でしょうということを書いております。

手島部会長 多分そういうふうな言い方をされた方が分かりやすいですね。「健全な安定した行財政運営」というところからは読み取れません。多分難しい言葉過ぎるので、もっともっと分かりやすい言葉で・・

須田企画財政課長 もっと砕いた表現で書き直した方が良くもありませんね。思いとしては国に左右されず市町村がきちんと実財源を持って安定していきたいということなんですよ。

佐々木係長 我慢を強いらせるということは、行政としては一番無責任なことであって、できるだけ先ほども言いましたが、家庭もそうですが、貯蓄をためながらというような、皆さんが普通通り買い物をしたり、余裕をもって生活できるというイメージをこれに落としたということです。

羽生委員 家計と一緒にだと思っているので、言いたいことは多分そういうことなんだろうと理解できるんですけど、一町民として見たときに、これは何のことを言っているんだろうと疑問に感じてしまうので。

- 青木委員 住民の生活みたいな言葉が出てくると分かりやすいかもしれないですね。
- 手島部会長 そのために産業が発展し人が集う町づくりを進めて行きますという感じなんですよ。
- 佐々木係長 将来像の頭に「産業」という言葉が出ているのでそうなのかもしれませんが、やはり2040年、25年後に入れたというのは、皆さんが住みやすい世の中で生きていけることが、今後25年後に皆さんと一緒に目指す姿なんだと。そのためにはやはり、地域経済に潤いを与えなければいけないと。そうするためにはどうすると言ったときに、お客さんも来る、皆さんも稼ぐということでお金や人で賑わうということだと。そのためにはどうするかと言ったときに、皆さんがそのまま行ってもダメだとなったときの手段として考えられるのが産業なんだといったところの全体像として産業という言葉から始まったということです。
- 手島部会長 今お話があった25年後に住みやすい町づくりというキャッチフレーズのほうが分かりやすいです。そのままのほうが分かりやすいです。そこから力を入れていったところは分かりにくくなっています。25年後も私たちは住みやすいというか、良い環境で美里町に住んでいられるんだなというイメージですね。
- 須田企画財政課長 将来像を絞りすぎたのかもしれませんがね。
- 佐々木係長 そのとおりだと思います。学校教育とか子育てに憧れをもっている方もいらっしゃるでしょうし、ひょっとすると10年後20年後にあそこは意外とケチケチしてないよと、あまり税金が高くなよというような町として来ていただくような、皆さんが安心して暮らせるような魅力のある町ということで・・・
- 手島部会長 すっかりそのままやった方が本当にPRになると思います。多分そういったことを言われたら、じゃあ美里町良いかとか、キャッチフレーズの中の子育てというところで充実しているというところを美里町に来られた方がおっしゃってるので。
- 青木委員 (紙コップを手に取り) ちょっとこれお借りしていいですか。構造的な部分が、やりたいことの部分がこの計画でゴチャとなっている理由が多分一番は、美里町の人口増加だと思うんですよ。何をやるにしてもおそらく。安定した行政をやるにしても。その人口増加をするために産業、雇用も進めなければいけない、教育の質を向上しなければいけない、福祉を向上させなければいけないという三本柱が立っている構造なんじゃないかなと。それらが盛り上がれば、福祉が充実しているから美里に行こう、雇用がいっぱいあるから美里に行こう、子育てしやすいから美里に行こうと。それで人口は増える、財政も安定する、良い町が作れるという流れなのかなというふうに思うんですね。それを図解で構造的にやれば一番分かりやすいのかなと。柱がどれで最終的な部分が何なのかが分かりづらいと思うんですね。
- 羽生委員 今青木さんがおっしゃったので、これにあてはめると、ここに産業がきてしまう形になりますよね。
- 青木委員 産業があって人口があってという形になっていると思うんですよ。人口がトップにあって産業、福祉、教育という柱が立つのかなと。人口ビジョンをトップに持ってくるのは間違いじゃないと思うんですよ。何をやるにしても賑わいが必要だと思うので。活力とかも。

- 羽生委員 これは来年度から始まるものですよね。来年度転居して来られる方がこれを見て、この町は産業があるんだと思ってしまう方もいるんじゃないかと思うんですね。こういうことを目指してますよということを表すのであれば、やっぱり順番を考えていただいたほうが良いのかなと思います。来てみて産業が無いじゃないかとなると、それこそなんだこの町はとなるのかなと。
- 青木委員 こうなるために3つこういうことをやってるんだとなったほうが分かりやすいかなと。
- 羽生委員 最終的にここが目標となれば、なるほどと皆さん誰が見ても納得できるのではないかと思います。
- 佐々木委員 教育部会では、この20ページで「産業が・・・」というのが前面に出てくるから、教育とは産業だけではないというような論議になって、ここに持ってくるのは何なんだろうと。そうするとこの柱はどうなんだろうと。それ以上進まなかったんですね。この基本構想をどのように考えたらいいんだというふうに悩んでました。いろんな考え方で捉えていいんだという柔軟的なものが出ましたから、その辺は部会の中でも論議できると思います。
- 青木委員 「人が集い・・・」からでいいんじゃないかと。
- 須田企画財政課長 今出た意見で事務局としてもいろいろ考えています。確かに上に来るものが違ってきますからね。
- 青木委員 それで混乱したかなというのがあったので。たぶん町としてもこの10年間雇用に力を入れてこなかったから産業をやらないとダメだぞという考えから前面に出たと思うんですけど。
- 羽生委員 お話ししていることは分かりますが、一つに特化したものではなく、全体を見据えて進めていただければなと思います。
- 手島部会長 その辺を反映して基本理念のところはよろしいでしょうか。
- (はい。の声あり)
- 手島部会長 今お話ししたところで、今お話ししたような内容で文章化したものが出てくるかと思うんですけども、「健全な安定した・・・」というところをもっと具体的な形になるかなと思っています。
- では美里町の主要課題というところに行きたいと思います。ここで出たのが、「住民意向調査結果とは関係無いものなのか?」「町民の声はどこに反映されているのか?」「住民意向調査の一番重要度が高いと分析された医療については?」「創出される雇用の場は、求職者が期待するものといえますか?」というところですね。町民の声を聞きます、大切にしますというところがあるんですけども、一番最後のページですね。重要度というところで医療が極端に重要であると町民の皆さんが訴えているところで、ここが弱いというのは弱いというか、この辺が主要課題に組み込まれなくて良いのかという感じもありながら、やはり町民の声というところで・・・。
- 佐々木係長 医療については、はっきり言うと町でこなせる部分では、財政的、人的にも限界があるということをご理解いただきたいというのがあります。それで大崎の医療圏ということで大崎市民病院であったり、涌谷のほうであったりといいことで医療に関してはこのようになったということでございます。この部分については、負担金であったり分担金であったりといった形でお金を支払いながら住民の命を守っているということで、どうしてもお金の話になってしまうんですね。お金で命が助けられるという話になってしまうんですけども、今の案の段階での考え方なんですけれども、そう

すると地域経済の潤いであったり、自主財源の増加であったりというところでしか解決できないということで、産業から発展させながら地域経済が潤う、財源が増える、それで住民の皆さんの命を守って行くような仕組みにしかできないと。ここで病院建てますとなった場合に、今度は別になってしまうんです。そういう部分での三段論法になってしまいますけれども、そういった意味で医療についてはカバーしていくという形にしかならないということですね。

手島部会長

建物とか病院そのものというイメージもあるんですけど、地域医療とか私専門じゃないので分からないんですけども、たぶんいろいろな医療の考え方があるんですね。ただ住民から出た声が、医療に関して何らかの主要課題になり出なくて良いのかというところが。医療の重要度が高いということは、住民の注目度は医療にあると思うんですね。町がどうしても行きたいのかという方向性も施策の一つではなくて、この主要課題に入ってきて良いところのエリアなのではないかと思っています。先ほどから出ている将来像から始まってのところなんですけど、次が高齢者福祉ですよ。だから福祉医療という分野のところ、非常にもしかして町民の声からすると離れている主要課題なのかなというところはアンケートを書いた人なんかは特に思いますよね。

須田企画財政課長

10年前も5年前も同じアンケート結果で必ず医療については一番と。町として一次医療で南郷病院を継続して運営していきますけども、これは一つの町だけの行政課題ではないんですよ。確かに主要課題だけでも・

手島部会長

何らかの形で、例えば医療という問題に関して試みていかなければならないし、町民に対して現状としての現状課題というところで今の課題というのが出てくると思うんですね。財政的な問題等というのは現状と課題だと思うんです。ただそれに対して、美里町はどうするのかという方向性が見えてくるような、検討していくという内容があれば良いと思うので、結果として何々ができるではなくてもいいと思うんですね。

佐々木係長

それですね、24ページなんですけど、これからの特化した取り組みというか、優先的に取り組むという意識付けをするということで、産業活性化プロジェクト、住環境向上プロジェクト、子育て・教育プロジェクトということで三本立てとしておりますけれども、この中で住環境向上プロジェクトということで、やはりこちらにお住まいになる方は、医療に関係する部分はとても心配されるだろうと。逆にその部分が充実すれば多少なりともこの心配は防げるのかなというところで、ここにしるしを付けましたが、それでは何をするのかといったところでは、確実に病院にかかれる制度であったり、確実に病院まで行けるという交通手段であったり、南郷地区でいえばデマンドタクシーなどがありますけども、そういった部分での取り組みというところで、こちらは命を守るということで優先的に取り組みましょうというところで、意識付けとして、主要課題には謳っていませんが、意識付けというところでこちらには星印を付けているということです。

手島部会長

後半にこのプロジェクトのところ質問があるんですけども、今お話がありましたので、実は整合性というところで、町で主要課題としているところとプロジェクトをもっていく、何を重点的にやっていきたいのかというところでバラつきというか、今のお話でそれも入っていますと言うんですけど、それであれば主要課題のほうに入れてもらっても問題ないんじゃないかなと。そうすると、あとで説明を聞こうと思ってるんですけど、これを重点的に柱としてやっていきたいんだというところなんです。あとでプロジェクトというところでお聞きしたいんですが、ただその中での医療が入っている、オモテとしては課題には入っていないということですね。なので、ここは連動していくようだと分かりやすいかなと思います。

- 須田企画財政課長 主要課題は絞っていますからね。医療福祉も入れるようにしなくてはいけないかもしれませんね。今回の住民アンケートで高齢者福祉がかなり伸びましたからね。
- 手島部会長 高齢者福祉と書いたら一番目を引きますよね。先ほど学校教育の関係もというところも入っているので、このへんは・・・。
- 青木委員 主要課題の人口のところは医療福祉になればいいんじゃないですか。人口は理念のほうに持っていくと行くことで。人口は多分トップだと思うので。ここに医療福祉を入れて三本柱を作った方が良くないかと思いますね。
- 須田企画財政課長 確かに主要課題は医療と高齢者福祉は間違いなく大きな課題ですからね。
- 手島部会長 そうすると総合戦略のところの人口問題のところとリンクしてきて、こっちが充実してくるんですね。
- 青木委員 三本柱があると明確になってくると思うので、何を伸ばしていったらいいか。
- 羽生委員 そうするとバランスが良いかもしれませんね。
- 青木委員 そうすると構造的にも理解しやすくなると思うので。
- 手島部会長 もう一つの雇用の創出というところですね。求めている職が・・・
- 須田企画財政課長 仕事はあるんですよ。ただそれが求めている仕事ではないんですよ。安定した職となると、どうしても地元ではなくて。仕事はあるんだけど、求めている職ではないということなんですよ。これは客観的な数字を掴んでいる訳ではないのですが、あくまでも主観的なもので、いろいろな人たちの意見を聞く中では、やはり人口問題あるいはこれからの町の発展も、働く場所、雇用の場の充実が一番だというのが多く聞かれますね。ただ働く場所があればいいというわけではなくて、職の質と言いますか。企業誘致等でいろいろな業種の方々のお話を聞いてみると、人材がいれば来ると言う企業が多いです。来ても人材が確保できないので進出できませんとなるんですよ。だから来るとすれば、その人材を全て連れてくると。その下で働く方々ですね、パート等の雇用条件が悪いところを地元で雇用するという形なんですよ。
- 佐々木係長 産業分野の話になるんですけども、いわゆる工場が建つ、仕事場ができる、そこに務めるということから脱却して、ベンチャービジネス等の起業に支援を行いながら自分の働きたい仕事をこの場で作って、美里に来てもらうというようなところを今後強めていくというところを産業分野では書いております。一人二人の事務所でもいいんですけども、今はパソコンを使いますので、事務所を置くくらいのスペースが町内にどんどん出来て、いわゆる看板があふれる町になれば、とても大きな工場ではなくても、それを積み上げていけば繋がっていくのではないかと考えます。
- 手島部会長 それと同じところで、産業振興・雇用対策のところ、「働く場のないことが若者の転出を招いていることは明らかです。」というところの根拠があるということなんでしょうか。
- 須田企画財政課長 先ほどもお話ししたように客観的な数字は掴んでないのですが、要員の一つであろうという推測ですけどね。

- 佐々木係長 窓口調査というのをやっております。窓口で転出される方、転入される方に任意のアンケートを取っております。どういう理由で転出されますか、どういう理由で転入されましたかという理由を取っているんです。これは正式に全員からアンケートしているものではなくて、手続きだけだと何のための手続きかが分からないので、任意でとらせてもらって、今70件くらい取れたんですが、転出の理由が仕事のためというのがかなり多いですね。2番目が結婚のためなどとなっていて、それが実情です。仕事のために入ってきたという人はあまり見えないと。仕事のために出ていく方が多く、しかも若い方20代30代、特に女性の方が多いというのが実情ですね。これは今年から始めまして、内容を見れば面白いといえますか・・
- 手島部会長 転出のデータとかは資料に添付は・・
- 佐々木係長 まだ始めたばかりの調査であり、まだ調査途中のもので個数も20とか30、今でやっと60位たまりましたけども、まだデーと呼ばれるような代物ではないので、今はその傾向を見ているだけの段階です。
- 手島部会長 ということは「明らかな」というのは「傾向がある」ということですね。
- 企画財政課長 我々職員も集まってこの話をするのですが、働く場所だけが原因ではないんですけどね。若い人たちが転出していくいろいろな理由の一つですよ。次の質問の18歳から25歳と出ていますけども、ここが一番難しいですね。
- 手島部会長 ここが出ていくことで人口問題なのかということころをちょっと・・
- 須田企画財政課長 それだけではないですよ。出て行っても帰ってくることも当然あるでしょうし、ここにずっと一生いるよりは、一旦若いときに町外に出て人生経験を積んで帰ってくるということもありますよね。それを考えると18歳から25歳までの方が多く転出していることが、プラスになってくることもあるでしょうから、住むんだったらこちらに帰ってくるというような環境づくりも必要になってきますのでね。帰ってくるのに何が必要かとなった場合には、やはり仕事だったり。仙台周辺に仕事があるのであれば、仙台に行くアクセスを強めていくということも必要でしょうし、文化的なところでは、この年代は都会の文化的なところに憧れて行くんですよね。出て行った若者が30代40代になった時に求める文化的な生活とはどのようなものかということも探っていかなければならないでしょうし。
- 佐々木係長 他でいいますと聞こえは格好いいのですが、やはり愛着教育ですね。地元の愛着教育で一旦は学習のために出ていくのですが将来的には戻ってくる、もしくは外で学習している段階で美里は良い所なんだぞと、いわゆる外でのスポークスマンになっているような人材が、小さいころから育っていけば、これは先の長い話ですけども、これは凄く大事なことで先を見ればこれは大きく影響してきます。地元の事を本当に考える子供や若者であったりということで、少なからずこの積み上げが大事なのであろうというふうに考えています。行政職員が何を甘ったれたことを言っているんだと思われるかもしれませんが、これは実際にある話で、愛着が無いとやはり帰ってこないですね。自分の小学校が自慢だとか、中学校が自慢だというような子供でなければ戻ってこないです。
- 手島部会長 今お話ししたのが、人口ビジョンの中に入ってくる部分だと思うんですね。それを今のお話が人口ビジョンの中で、それが将来の美里町の愛着教育というのを入れながら、たぶん人口問題のところに入ってきても良いんじゃないでしょうか。人口のところは統計だけになっているので、その

辺も後半・・・

- 須田企画財政課長 部会長さん、先ほど青木委員さんがおっしゃったように、人口問題を一番上にもってきて、いろいろなことが人口増に繋がっていくという考えで、今お話しした部分であれば、教育の分野に位置付けていくという形のほうがいいかなという気がしますね。いろいろなものが人口に繋がってきますよね。
- 青木委員 全てですよ。
- 羽生委員 愛着教育は教育分野ということですね。
- 青木委員 私たちの話し合いに愛着教育を入れていくということですね。その答申に入れてもいいと思いませんし。
- 手島部会長 次に子育て・教育のところで「保育施設の老朽化の問題とは何か？」ということと「保育士の確保は、なぜ問題ではないのか？」というところですよ。
- 須田企画財政課長 老朽化しているのは一か所だけあります。小牛田保育所の分園で桜木町にある小牛田保育所分園があるんですけども、そこがかなり老朽化しているので、とりあえず大規模改修を考えていかなくてはいけないなと考えています。あるいは、移転や引っ越し、新築とか何かの形を考えなくてはいいなくなっています。今検討しているところです。子供たちを預かる施設として、他の施設と比べると比較的老朽化しています。保育する環境は整ってはいるのですが、子供の数は横ばいか少しずつ減っていきませんが、保育に対する需要は高まっていますので、保育対象数は今後も増えていくと思われます。何らかの形で老朽化した小牛田保育所分園については対策を取らなくてはいいけないという状況です。
- 羽生委員 私は実際に二男を預けていたんですが、冬は床暖房が入って良かったんですが、トイレの匂いですね。保護者として衛生面を気にしていたところだったので。
- 須田企画財政課長 教室は床暖房が入っているんですけども、ホールなどは入ってないですよ。改修したほうがいいのか、別途新しく建てるというのは大変なのでどのようにするか。
- 羽生委員 送り迎えの際に駐車場の場所もひどくて、目の前で交通事故を目撃したこともあって、場所としての問題もあるのかなと思いますね。うちでも数か月待機児童となっていましたので、働くお母さんが増えている中で、核家族の中で保育所は早急的な・・・
- 手島部会長 それは施設の問題なのか保育士の対応ができないのか・・・
- 須田企画財政課長 どちらもですね。
- 羽生委員 保育士の確保ができないから待機児童ですという話で、こちらに転居してから数か月、仕事ができない期間があったので。
- 手島部会長 保育施設の老朽化の問題は施策の中ではどこに反映されているのでしょうか。

- 須田企画財政課長 ちょっと脱線して申し訳ないのですが、本日こども家庭課の奥山参事が出席しておりますので、こども家庭課は保育関係を管轄していますので、本来は違う部会なんですけど、保育と幼稚園の関係はなかなかしっくりこなくて、その関係でこども家庭課の課長が保育分野に入ってまして、奥山参事がこちらに入ってもらっています。皆さんに審議していただきたいのは、幼児教育施設としての幼稚園と保育施設としての保育所の関係をどのようにしたらいいのか、その辺も合わせて議論していただければと思います。今あっちでもやっているんですが・・・
- 手島部会長 幼児教育となってくるところと社会教育といったときには、こちらのほうに生涯の教育の中と、それと施設問題・・・
- 須田企画財政課長 延長保育が進んでいて、3歳、4歳、5歳で保育所と幼稚園が変わらなくなってきたんですよ。なんで分けなければならないのかということも出てきますし、0歳から2歳児の保育需要も増えてきているので、それはそれとして保育施設を別個に造る、3歳以上は一緒にするとかいろいろなやり方があると思うんですよ。
- 羽生委員 保護者としては一本化してほしいですよ。うちの子供は保育所から幼稚園に移ったんですけども、保育所から子供が多すぎるので、移れる人は移って欲しいというような説明を受けて、自宅からも近かったですし移したんですけど、もちろん預かり保育もお願いしてありますが、年度末、何度始めの何日間は預かり保育ができませんということで、仕事をしている親が年度初めなので仕事が忙しい所で仕事を休んで子供を保育しなければいけないという状況で、保育所であればそういうことがなかったの、非常にそれは困っていて、2年続けて教育委員会へどうにかならないかと意見を寄せたことがあります。4月1日に辞令交付だったりがありますので休めないの、主人に休んでもらったりということもありますので、一本化してくると、また保育所みたいな形で働けるし、親たちの支援にも繋がるのかなと実感しています。
- 手島部会長 やっぱり会議とかで預けていて大変私も幼稚園にはご迷惑をおかけしましたので、遅れるたびに頭を下げながら「すいません、今迎えに来ました。」というのを繰り返して余裕が全然ないですね。突然、研修があるので12時までしか預かれないですとなると、どうしようとなりますね。
- 羽生委員 臨時休園とかもやっぱりつらいですよ。
- 手島部会長 仕事は一緒に休めないの。
- 羽生委員 保育所であればそういう事は無いので、一本化で進めてもらおうと、これから働くお母さんは増えるでしょうから。
- 青木委員 南郷は一本化していますよね。
- 羽生委員 ああいう体制でもいいのかと思いますね。もちろん検討とかは必要でしょうけども。どちらかというと先ほど部会長さんがおっしゃった子育て支援に力を入れているということで、インターネットを見て転居してきたのが私ですので。実際来てみると困る面も多々あるので、こっちに引っ越してこようかと考えている知り合いとかに100パーセントいいよと言いきれないのが実情ですかね。
- 青木委員 すごく進んでいる町だとは思っているので、さらに進めるとすごい特徴になるのかなと思いますよね。

手島部会長 それに対して次の問題として全部繋がってくると思うんですけど、「子育て支援をすることで、女性の社会参加が促進され社会全体の活力を維持する原動力になるとはどのような事なのか？」という問題が今のお話だと思うんでね。なので、そこをこの文章より分かりやすい書き方をしていたらいいかなあと。「待機児童の発生と保育施設の老朽化の問題を解決することで、人口減少対策・少子化対策になるのはどうしてか？」というところも全てリンクしながら、「教育に関する主要課題はどこに入っているのか？」というところが私たちのところだったんですけど、先ほどの幼児教育、全体的に考えるといったところが、今、幼児教育が入ってなかったんじゃないかと慌てて今見てるんですけども・・・幼児期の教育・・・文章、施策の展開かな。41ページの「幼稚園の運営について、国の「こども子育て支援事業」に基づく「認定こども園」へ移行する場合との比較検討を行います。」とありますが、それだと次の部会のところの・・・

青木委員 これだと施策の8ですね。

手島部会長 ここですね、施策8で「幼稚園の統合を進めながら、復旧・建て替えを行い・・・」というところですね。

羽生委員 全体的ですけど、さらっとした文章で触れているだけなので、理解しづらいかなと。皆さん一生懸命考えて、分かりやすくしたであろう文章なんですけども、住民がパッと見たときになんだろーというものがたくさんあります。口頭で説明していただいたことを文章にさせていただいた方がもっと・・・

青木委員 この辺はこの間の部会とかでも出てたと思うんですけども、どこまで具体的なものをこの答申に突っ込んでというところが、我々もどうしようかとなっていて、あまり具体的すぎても難しいのか、その文言がすごく難しいと思うんですけど。

須田企画財政課長 方向性だと思うんですね。現状と課題で指摘して、施策の展開でその方向性を示していくという形になるんじゃないですかね。例えばこのような事業をしたいとなれば、関連事業でということかなと。方向性までではないですかね。総合計画の基本計画になるので、ある程度一つの方向性を示していただいて、その方向に向かうために具体的な事業を、実施事業を作りますので、事業がこの方向性にどれだけ貢献してるかというところを一つひとつ見ていくと。例えば幼稚園では施策の展開が5つあるんですけども、場合によっては上の2つだけかなり重点的にやって、その他は手つかずになるということもあるんですよ。まんべんなくやるというのはなかなかなくて。話しがずれますが41ページの施策の展開についてですが、これは教育審議会の関係になります。今はこのようにしか書けないのですが、再編ビジョンが出るということで話がされているので・・・

手島部会長 これ、もしあれだったら本当に大きいですよ。

須田企画財政課長 そうですね大きいですよ。再編ビジョンのほうを教育委員会で策定して・・・3月までに。それはそれでこの場ではなく別のところで審議されますので、・・・それが3月までにできない場合にはこの文言は変えなければいけませんよね。再編等の整備に向けて。

手島部会長 学校再編というのは本当にかなり大きな問題なので。

須田企画財政課長 町を左右するくらいの大きな課題ですね。

- 手島部会長 もしかしたら現状と課題の一文の中ではなく、施策の大きな問題に取り組んでもいいくらいの・・
- 渋谷教育次長 まだ見えていないので・・
- 手島部会長 ただこれが出ないと来年以降動きにくいというか動けないというか、これの拘束力がどれくらいというのがあると思うんですけども・・
- 青木委員 方向性はこっちというふうにしておいて、具体的なところはこの段階では定めにくいというところですよ。統合するぞとも言えないしというところですよ。
- 佐々木委員 具体的なおところまでは書けないですね。
- 青木委員 そうですね。ここには載せられないですよ。まだ理解が進んでいない段階だと思うので。
- 手島部会長 12月に再編ビジョンができるということでの・・・
- 須田企画財政課長 教育委員会では・・・それを町が受けて町としての再編ビジョンとして3月までに確定していくということですね。それが間に合わなければ・・・
- 手島部会長 私たちはその再編ビジョンというものを、案というか骨子案はできているようなんですけども、それをもとにしか話ができないということですね。それをやるということが織り込まれていなければ動けなくなってしまうと思うのと、その辺が後半の計画のところの25年後に向けた計画というところの捉え方、将来像というか、学校のところ・・・そしてその中の5年後私たちがというところの・・
- 須田企画財政課長 最初の5年は無理でしょう。
- 渋谷教育次長 なかなか難しいものはあるでしょうね。
- 佐々木係長 25年後の姿を目指して、その5分割としている中で今回の5年間では、住民の皆さんの意思統一をしましょうとか、もしくは設計まで終わらせましょうとかどこまでの線引きかというところを決めていただければと。中身はまた別の話で今回とは別に実施計画で考えなければならない部分であり、どこまでもっていきますかというところをこの場でお決めいただければと思います。
- 手島部会長 結局はここでいうと、「再編ビジョンに沿って着実に進めてまいります。」という再編ビジョンがない中でこれを審議するということですよ。
- 佐々木係長 この「着実に進めてまいります。」というのが表現上合わないんじゃないかとなった場合は、「示してまいります」と直した方が良いですねというような具体的な議論になっていくと。
- 手島部会長 再編ビジョンもまだ出てないから、不安要素があるものとして考える・・
- 青木委員 今の段階で教育委員会さんの中では、統合を視野には入れているんでしょうか。まだそこまでは言えないですよ。そうですね。

- 羽生委員 せめてある程度の方向性でもさらっとうかがえると・・・
- 渋谷教育次長 住民に対する説明会は実施していますが、参加される方が少ないということで、保護者に対する説明会を開催し保護者の方の意見を聞きながらということになりますね。
- 手島部会長 この資料を皆さんにお渡ししてもらってますよね。その中に骨子案というのがあります。
- 佐々木係長 手法として保護者の方々に説明会を開催するとした場合、保護者の方に説明をしても、子供は卒業してしまうんですね。例えばもっと若い人、20代とかこれから親になる方々を対象に説明会をやってみたらという提言が出れば、それは素晴らしい提言だと思うんですね。
- 手島部会長 学校や子ども問題はPTAだけではないので、学校があるないというのは、地域や町の存続に関わるくらい大きいところなので。念頭に入れながら決まるものとして考えると。
それでは次の課題に入ります。12ページに入りたいと思います。「計画の位置づけ」というところで、「一本化したほうが良いと思うが、なぜ「まちづくりの基本指針」と「まち・ひと・しごと創生に関する基本計画」として創生法の説明になるのか？」というところですね。一番初めの前段での趣旨とか美里町の総合計画というところでの説明があり、その計画を美里町でこうやってますよとあれば、もしかするとここは必要がない部分なのかなと思い、先ほど聞いていました。
- 須田企画財政課長 説明を追記しますかね。
- 手島部会長 趣旨があって理念があって将来像があって計画がどういったものというものがあれば、これはいいのかなと。最初のところで聞いた感じではそう思いました。あと計画策定の経緯ですね。できれば理由があったほうが、先ほど言った25年後の住みよいまちづくりのためだったり。終わったからやるというのは、ぶっつけ仕事というか、やっつけ仕事みたいな感じに取られてしまうなど。
- 須田企画財政課長 位置づけに謳っているように計画的な行政、総合的な行政、先ほども言いましたけどもこれは必要だと、そのための基本指針が必要だということですよ。終わってしまいますので次のものとして定めていくということですかね。それが無いと先ほど言ったようにこれがどのような施策に事業がリンクして、それが良いのか悪いのかという、予算を付ける場合ですね、今までの成果を評価する場合できないので、どうしてもこれは必要ですね。
- 手島部会長 これをもう少し分かりやすくというか・・・
- 須田企画財政課長 今後もこれは必要なのでということですね。
- 手島部会長 そういうことが入ってくれば良いのと、一番初めに出てきた、まち・ひと・しごと創生法のところで書いてあるんですけども、それが何だろうということが分からないでスタートするのはここが・・・
- 須田企画財政課長 ここにまち・ひと・しごと創生法の説明が要るのかな。
- 手島部会長 要るような気がしますね。耳には聞こえてくるし、こういう法案があるというの分かるし、地方創生という言葉がずいぶん出ているんですけども、具体的にどうということと、そして町は何をしたいのかという両方分かって良いかなと思いますね。この辺が前段のところと全部リンクしてく

ると思います。6番の計画期間に行きたいと思います。「25年後の将来像に向けて、5年間の計画とはどういうことなのか？」ということで、先ほどの5年間の計画というところで、総合戦略とだからではないと先ほど説明がありました。20ページの中で「将来像2040の達成に向けて」というところでは、「これらの期間を5期間に分け、期間ごとに・・・」というところの25年後に向けた5年ですというのが分かるんですけど、これは5年間で終わる計画ですよというふうに読んでしまうので、将来像とかそういったものが2040年に向けているけれども、内容全てが5年間の計画でという考え方なんでしょうか。25年のうちの1期としての5年という説明が必要であればここにも必要じゃないのかなと。だからもしかして将来像は2020年だけでも、5年で計画は終わりますよと取られてしまいそうな・・・。

須田企画財政課長

5つに分けたひとつとしてこの5年があるんだということですね。

手島部会長

第1期なら第1期の計画目標とか後半に出てくるんですけど、そういったところになるのかなと。その辺がちょっと分かりにくかったです。

佐々木委員

予想されるのは20ページの各期、将来像に向けての各期、1期は5年としているから、各期の大きな目標というのは当然あるわけだね。そういう中で次の1期から2期になるときに、その見極めということはどういう形でやるのか。行政だけでやるのか、その辺も出てくるのだろうと。継続して少し膨らませるのか、あるいは1期は終了したので、次の2期のプログラムに入りますよというふうにもっていくのか、その辺の見極めの段階で分かってくる、目標自体が分かってくるということだと思いますけどね。

手島部会長

今お話がありましたように、20ページの「5期間に分け・・・」というところの整合性と、将来像2040の達成に向けてというところなんですけど、「5年間の期間を設けて、それぞれが階段を上がるような形を取りながら2040年とすると、5年間に一つの目標が来るのではないか?」「5年間の目標の後ろのステップに上がるときの目標の押え方は?」という感じで2つ質問が出ていましたので、その辺も合わせてお願いしたいと思います。

佐々木係長

やはりこれからの町づくりは、短い期間の目先のことも一つの目標でもあります。それも含めてもっと中長期的な目線も必要になります。それはなぜかということ、やはりお金の面もあります。これから生まれてくるお子さん、今の若い人ということもあります。なので今の計画は5年間で、ただ美里町としては、中長期的な最終目標年度は2040年にしますというような書きぶりを足そうかと思っていました。今回のステップはとりあえず5年間で進めますというような計画の位置付けにしようと考えていました。次の第2期の目標、第3期の目標となるとちょっと難しいものがあります。中長期的な目標として25年後の姿というのは何となく見えてきますが、小さい刻みの目標を作れと言われれば、考えて作らなければいけないのですが、それを文言で表すのか数字で表すのかということにもなりますが、正直言って難しいものがあります。どうしても必要だと、それが無ければ皆さんの理解が得られない、住民の方が未来を描くことができないというのであれば、それは作る必要があるでしょう。しかしながら私も25年後にどうなっているのかと聞かれれば私も確証を持ってない部分もありまして、それはやはり4年後に評価しながら次の5年間の目標を設定する、また5年後に次の目標を立てるという刻みながら、ということですね。正直5年後10年後15年後20年後にどうなってますかと言われても、正直厳しいものがあるのかなというところで

手島部会長

フィードバックするというのを、「期間ごとに次の課題及び到達点を見極め・・・」というところ

だと思っんですけど、「目標を高めながら・・・」というところに行く目標があるのかなと。

佐々木係長

例えばここで2016年から2020年とありますけども、この期間の終わりころ2019年辺りですか、その2019年辺りに次のステップの目標を考えると。そして次の期間の目標を考えるという段階的なものかと。今2025年までロードマップをと言われてもなかなか難しいものがあります。よく言われるPDCAといったところで次々目標を定めながら、定めるときには単なる横滑りではなくて、もっともっと高めながら次の目標を設定するというようなイメージをしていただければと思っております。

手島部会長

これだといろんな捉え方ができてしまうのかなと思ったので、多分それで意見が出てきてると思います。

羽生委員

今おっしゃっていただいたことを、さらっとここに併記していただけると。見直しかけながら目指すのかなという捉え方・・・

手島部会長

その説明を聞いて読んでいくと、「将来像2040に向けて・・・」という感じでこれに向かって5年ずつ、一つの将来像という目標に向かって5年ごとにフィードバックさせながらやっていくよということなんですよ。でもちょっと分かりませんでした。今の説明があつたので、その辺を明文化というかしてもらえると分かるかもしれないので。

青木委員

その前のページに、人口の推計のグラフを丁寧に示していただいているんですけど、トップの目標が人口増加にあるのであれば、この推計から、じゃあ5年後10年後25年後までの人口増加の目標というか、それがもしあると、そこに向けて柱ごとにその具体的な施策を考えていきましょうということになってくると思うので、この総合計画に載せるのは多分難しいと思うんですけど、何かここを目指しましょうという人口の目標みたいなものが、簡単にはいかないと思いますが、膨大なデータを分析しなければいけないと思いますので、それが目安として何かあると良いかなというのはあります。推計が載っているんですけど、これに対して目標をどうしていきましょうとか、この推計通りにいくことを目標とするのか、ちょっと増えることを目標にするのかその辺も分かるか良いのかなと思いましたが。

羽生委員

目標のグラフがあるだけでも見方が違うかもしれませんね。

青木委員

推計に対してこう目指していきましょうみたいなものですね。

須田企画財政課長

一つの指標になるでしょうね。一つの指標として考えて設定していくと。実は今の段階の推計は5年に1回の国勢調査の人口を使っているんですけども、2015年のものが今ちょうど調査しているところで、来年の2月くらいに概数が出てくるんですが、それが出てきたら推計し直して、それに対して目標値を設定していくということを考えていました。とりあえずここで知っていただきたいのは、18ページの下側のグラフの青い線のように下がっていくということと、右側のグラフにあるように人口構成が極端に上だけが膨らんで、下が小さくなるということと、このような状況が必ず来るということを知っていただきたいということと、それに合わせてどのような町づくりをしていくかということが一つの課題だと思います。18ページの表については、最新の2015年のものを追加した中で推計をし直します。右側の棒グラフも作り直します。その上で今考えているのは、転入転出の差引をゼロにしていこうと。今は駅東の件もあって転入が多くなっています。しかし長い目で見ていったときに、これまでの傾向を見てみると、これは一時的な傾向なんですよ。

この傾向を分析して、これからも転入増とするためにはどうしたらいいのか。しかし転出増になった時のことを考えると、今後25年間で転入転出の差引ゼロがいいところだと思っているんです。社会増減に関してはそうなんですが、自然増減に関しては、死亡者がどんどん増えていくので減っていきます。子供の数は1.3くらいしかないんですけども、出生数が低ければ青い線のようにどんどん減っていきますので、その出生を2040年まで1.8、この1.8というのは国で言っているんですが、これを2040年に実現するという狙いを付けた場合、赤線のようになるということになります。1.8に増やすというのは、子供を産み育てやすい環境を作っていくということ、それから転出転入の差引がゼロにするということは、住みやすい町を作ってよそから入ってきていただく。先ほどお話ししたように18歳から25歳の若い方が出ていくのが多いものですから、出て行っても戻ってくるような環境づくりをします。ですので、転出入ゼロにしていきます。あえて企業を引っばってきたり、あえて大きな分譲地を作って他から人を呼び込もうという策は特に考えておりません。極端に転入だけを増やすようなことは考えていません。転出入はゼロで考えています。ご存じのとおり2020年になっても、まだそれほど変化はないです。長期的に見れば目標値を上げた分だけ上にはいくんですけども、出生率が少し上がったからといって、すぐに人口増に繋がってはいきませんが、これからの5年間で例えば人口が23,000人になるところを25,000人にキープするとか、目標値を作っていてもいいと思いますね。

青木委員 これは特殊出生率が1.8になったと仮定したときはということですよ。

須田企画財政課長 2.07という数字は人口を維持する出生率なんですが、その二つの数字を使えてきているんですが、現在1.3なので1.8という数字が良い目標値ではないかと思っています。若い人たちが少ないという右側のグラフのいびつな形を直すために、下の部分をどう増やすかですよ。若い人たちに入ってきていただきたいと。

佐々木係長 人口総数も確かに重要なのですが、年齢構成も変えていかなければならないと考えています。

須田企画財政課長 駅東地区は町の中でも異様な場所です。ここがなければ町は特に南郷地区は過疎化の高齢化社会ですよ。駅東地区でこの前お祭りがありました、子供たちがこんなにいるのかと思いましたが。

佐々木委員 ただ30年後が問題ですよ。

手島部会長 人口ビジョンのところに入りましたので、そちらのほうを、現行の総合計画と違いがあるというところをお話しいただきながら、「8計画の推進」と「9計画の進捗管理」というところを、抜けた部分を補ってから人口ビジョンにいきたいと思います。先ほどの5年間の目標というところの次で、計画の体系、13ページですね。こちらのほうは当初お話しいただいた内容と同じですので割愛させていただきます。計画の推進、計画の進捗管理、人口ビジョンまでですね。「現行の総合計画との違いがあるが、なぜ変わったのか？」というところで、例えば計画の進行管理ですかね、こちらが。進行管理調書というのはいただいております。その進捗状況を管理していくのかということと、計画の推進というところが改めて入ってきているというところを説明していただければと思います。

須田企画財政課長 前は無かったということですね。

手島部会長 はい、そうですね。進捗ではなく進行管理という言葉になっているかと思いますが。

佐々木係長 皆様ご存知のとおり、地域経営というものは限られた財源、限られたマンパワーの中で、PDCAで保ちながら業務の質を改めることを求められていると思います。計画を作り実行して評価、チェックということで、チェックが入り改善行動アクションということで次の計画に結び付けていくような回し方がこれからは一般的ななのであろうと。これは地方創生については特に求められている部分であります。しかしながら美里町においては、これは以前から前の計画書にありますように、以前の計画書からPDCAという回し方をしております。それで、その再掲といっておかしいんですけども、もう一度載せてもらって意識を新たにしていきたいというところでございます。計画の推進というところでございますけれども、縦割り行政というようなことが無いように庁舎庁内が一体となって取り組むことが、これからの町の創生などに必要であるということ、恥ずかしながら改めて書いたということでございます。行政だけでは今まで何もできなかったじゃないか、これから本当にお金があるのかと言われることもあります。その時は民間、民間企業もごさいますし住民の方々もいらっしゃいます。各種団体もごさいます。皆さんと手を取り合いながら、皆さんの知恵や力をいただきながら、これからの計画を進めて行かなければならないだろうというようなことで、ここに改めて書かせていただいたわけでございます。改めて意識づけということで書いた訳でございます、みんなで手を取り合って、ここでは協働と言っていますが、民間の力を活用しながらというところで、書かせていただいたということです。

羽生委員 これが前回のどこだったのかなということと、どう変わってきたのかなということ比べようと思って開こうとしてるんですけども・

佐々木委員 この計画推進の根本的なものですね。

手島部会長 そうすると、もしかすると最初の「はじめに」というところにみんな入ってくる内容ですかね。

須田企画財政課長 ここはもう少し分かりやすい表現にして、基本理念に入れても良いかもしれませんね。

佐々木委員 それと比べた場合に今度のポイントなんだということ14ページにね。ぐっと光るものがありますよね。

須田企画財政課長 一行目の「組織内の連携をしっかりと・・・」というところは、我々あえて書かせていただきましたけれども、町民の方々に協力をいただく前にですね、役場の組織をしっかりとしてからだという意味で・・・

手島部会長 それ書いて良いんでしょうか。

須田企画財政課長 できなかった部分もあるので、連携をしっかりとすると・・・

佐々木係長 その反省も踏まえ、心掛けも踏まえて、わざわざ計画に書いたということで、宣言というものでもないのですが・・・宣言しないとやらないのかと言われればそこまでなんですけども・・・

手島部会長 プレッシャーを与えるということですかね。
では、人口ビジョンに入ります。国勢調査による人口推計でなければならないというものはあるんでしょうか。

須田企画財政課長 理由は無いですけれども、先ほどお話ししたように5年に1回、今年2015年ですので、西

暦でいうと0と5が付く年に国勢調査を実施して把握するものと、もう一つ町で住民基本台帳人口、住民基本台帳に登録している方々の人口の二つがあります。今の総合計画は住民基本台帳人口で作られています。この経緯をお話ししますと、合併する前の年、平成17年に建設計画と言うものを作りました。その時に住民基本台帳人口が使われて、合併した後に総合計画を作りました。これは前の建設計画を引き継いで策定されましたので、その時に国勢調査人口に変えることができなかったため、引き続き住民基本台帳人口を使ってきました。住民基本台帳人口は毎月末に数字が出るという長所、利点があると思います。しかし実態をいうと、国勢調査人口のほうが実際に住んでいる人を把握できるという利点の一つ。それから、全国規模のデータ分析は国勢調査人口で行われています。それらと比較するときに今まで大変酷かったんですよ。ですので国勢調査人口で統一して作った方が、他との比較、町の人口データ分析がやりやすいということですので、今までの10年間には住民基本台帳人口を使ってきましたけれども、今回は国勢調査人口に切り替えてやってみようという考えです。

手島部会長 そのほうが分かりやすいんでしょうか。

須田企画財政課長 その方が他と比較しやすいので。もし住民基本台帳人口が必要であれば、国勢調査人口に補正をかけて、住民基本台帳人口の推計をすることも可能ですので、これは今年度できるかどうかは分かりませんが、時間があればやってみたいと考えています。

佐々木係長 地域経済分析システムとシステムが全市町村に入りました。ホームページからも見れますので、見ていただきたいと思うんですけども、このデータに基づきながら業務を進めていきなさいよという大変厳しいものになっております。そちらのデータ内容がすべて国勢調査人口を採用しています。その政策を進める上で、バックボーンとなるビッグデータはないんですかとなったときに、業務を進める上で、人の移動であったり、観光客がこのくらい来てますよとか、これくらい製造物がありますよというような様々な分析のデータを使いながらこれからの業務を進めなければいけないのですが、そちらで用いられている人口も国勢調査人口がほとんどです。そういったことから今回から切り替えたということもあります。

須田企画財政課長 5年に1回しか数字が出てこないという欠点があるんですけども、しかし国勢調査人口に対して住民基本台帳人口の増減等を使って補正して国勢調査人口の推計もできますので、その月々の月末の国勢調査人口の推計値は出せます。それは県でもやっていますし公表されている数字として出ていますので町としてもできますし、5年に1回しか数字が出てこないという欠点は補えると考えています。人口というのは先ほども言いましたように、1年2年ですぐに成果は出てこないの、長いスパンで見えていかないといけないので5年10年のスパンでいいのかなと考えております。

手島部会長 人口ビジョンに関しては、先ほど様々な人口ビジョンのところに入れたほうが良いんじゃないかというお話がありましたので、それも今後部会の中ではまとめていきたいと思えます。ただやっぱり前回は住民基本台帳人口を基準とする推計ということで推計人口が、何となく美里町の現在という形で見やすかった感じはします。これが単年毎に入っているの、5年ごとのスパンではないということも1年1年というところの表もあるんですけど、こういったところも具体的に出るっていうのは見やすいのかなあと思えました。グラフ というところは、これも国勢調査のほうの人口から、これはどちらなんでしょう。

須田企画財政課長 国勢調査人口です。

手島部会長

こちらもそうなんですね。全部がということですね。

須田企画財政課長

乖離してしまっているんですね。住民基本台帳人口については、登録はしているけれども、特に若い人たちはいずれ帰ってくるだろうと住所を移さないで仙台で働いて仙台や東京に住んだり、結婚のときに移動はぐっと動くんですね。正しい数が把握できないのでということもございました。国勢調査人口の欠点は、これはまだこれからなんでしょうけども、調査の難しさが出てきて、本当に全員拾えているかということは、かなり問題にはなってきてるんですね。今回は国勢調査人口を使ってみようかということです。

手島部会長

では、今の話をもとにしていくと、今から行うこの施策、政策、施策ですね。この内容が全て国勢調査による人口をもとに行うという考えになるんでしょうか。

須田企画財政課長

それは、そのものによってでしょうね。使いやすいやつを使うという考えで。要は国勢調査人口も住民基本台帳人口もそれぞれ欠点があって長所があって使っているわけですけども、ここで総合計画の中で知っていただきたいのは、先ほどお話ししたように、このような比率で人口減少していくということは、これは国勢調査人口でも住民基本台帳人口でも同じですから。同じカーブを描く。それから、人口の構成、年齢構成についてもこのような形になるということを、きちんと掴んでいただいて、これをどうするかという、これだけの問題なんです。ここからさらに深く入って行って、5人10人100人のレベルで増やす減らすの話は想定は無理でしょうから。それぞれの計画はどの計画がどの人口を使っていくかというのは、それぞれ適したものを使っていくことですね。

手島部会長

先ほどの長期計画と5期に分けたということなんですけれども、結局5年間というスパンになってしまうと、国勢調査を合わせると細かい数字は出てこないんで、このやっぱり1年ごとのだいたいの推移っていうのは予測されると思います。住民基本台帳からの。この1期間5年間を考えるとしたら、これも入っている方が良いのではないのかなあと。

須田企画財政課長

住民基本台帳人口、両方入っていた方が良いということですか。

手島部会長

結局、5年間の今計画立てますと言ったときの推移としては、こちらのほうが多分分かりやすいと思うんですね。1年ごとのほうが。次がもうまるっきり5年5年で飛んで行ってますので、人口の推移・・・

須田企画財政課長

毎年毎年はっきりわかる数字を出した方が良いというわけですね。それはそれであれじゃないですかね、先ほど言ったように、国勢調査人口の起点が国勢調査人口で始まれば、そこから住民基本台帳人口を使って、国勢調査人口補正かけれますので、補正かけて毎年の人口を出していけば良いんじゃないでしょうかね。

手島部会長

そうすると、私たちは今5年間見ますよとなったときに、やはり短期目標とか、短期計画に入った時の人口ビジョンを上にもっていきますよってなったら、なおさらそれはもっと細かく人口ビジョンといったところで、もっていてもいいんじゃないでしょうか。

須田企画財政課長

細かくできますよ、国勢調査人口でも。補正をかけることによって。補正をかけていくことができるので細かくできます。ただ一つはですね、このようにカーブがまっすぐにはなってるんですけども、必ずこのように政策を打った時に政策の反映というのは、まっすぐには、上がったたり下がっ

たりすることは無いと思うんですよ。なので1年1年でその人口のデータで、果たして政策の良し悪しが判断できるかという問題もあるので、そこまで私は細かく・・・ちょっと言葉は悪いんですが、神経質にね、なることは無いんじゃないかなと思ってんですけども。

手島部会長

ただ、先ほどから人口ビジョンも上に持っていったらどうだということがあったので、詳細なところと、あとは今まで補足、表でもグラフでも書いてあるところが、全部参考と備考とかっていう形で書いてあるので、それらがこちらの案のほうのところにもう少し具体的に書いていただく・・・ビジョンとしての。美里町の人口ビジョンっていう。

須田企画財政課長

推計だけで終わらせず、町としての考えるビジョンを推計していく目標値としてね。どういう考えで設定していくかということも、もう少し詳細な表記は必要になってくるでしょうね。

手島部会長

それに伴って、たぶんそうすると、短期目標、来年までに5人増やしますとか、実質的な数字目標なんかも出てくるかもしれないし。ということではやっぱり5年後には、ちょっとなかなか、これは1年ごとにたぶんフィードバックしなきゃいけないんじゃないのかなあと。増えてる減ってる、増えてる減ってるっていうところは気になるところないんじゃないかなあとと思います。

須田企画財政課長

でも、それでそのまま政策が評価できるかという問題もあると思いますね。部会長さんがお話されるように、人口ビジョン、先ほどの言い訳になりますけども、2015年の数字出たあとですね、数値精査して、その上でこのような形で町の人口目標を設定すると。ただ、今考えてるのは、人口目標の設定は、さきほどお話ししたように転出入はゼロであると。ずっと継続していくんだと。そして、あとは1.8を達成していくんだということです。25年間でゼロにもっていくので、今人が入って来るんだたらどんどん入ってきてもらって。いずれは入って来るのはいつまでも続かないでしょうから、駅東地区の分譲地だって今6割7割くらい入ってるんですけど8割超えると止まってしまうと思うんですね。止まってしまうと死亡する方がどんどん増えていくので、交通の便も良くなっているし、いろんな環境で、東京との距離はすごく近くなってると思うんですよ。時間的にも経済的にも。なので意外と簡単に出ていくんですよ。でも簡単に帰ってこれる距離でしょうし。これは難しいです。ちょっと余談になりますけども、若者向けの定住住宅というものを作ろうかと思ってはいるんです。ただ仕事もそうでしょうし、帰ってくるときに自分たちが住みたい家があるっていうのが。昔と違って親と多世代で住むっていうのは、子供も望まないし、親もそんなに望まないんですよ。元気なうちは別々という考えなので、そうやって帰ってきた若い世代が住める家の整備とか、その辺もある程度この5年間で必要になってくると思ってんですけどね。

手島部会長

ありがとうございました。

次に入りたいと思います。20ページの「美里町の将来像2040」というところなんですが、これも先ほどお話ししたところなので割愛させていただきます。「・・・達成に向けて」というところも先ほど計画のところでお話がありましたので次に行きたいと思います。21ページ「稼げるまちの実現」「人が集まるまちの実現」「産み育てやすいまちの実現」ということで、これが将来像というところから大きな柱として受け止めたんですけども、表現の仕方と極端に絞った内容であるのはどうしてですかというお話が出ましたのでお願いいたします。

佐々木係長

文言がずれているのでなかなか繋ぎづらかったかなと、委員さんの中でも繋がりがなかったかなと思いますしそれは反省しております。ただしですね、分かっていたきたいのは、カッコ1の「稼げるまち」というのは、産業活性であったり雇用であったりというふうに繋がれば良いなというような文言の表記でありまして、「人が集まるまちの実現」については、人口問題は大切であるとい

うところの繋がりでであると。また「産み育てやすいまちの実現」については、少子高齢化、少子化対策の繋がりであるというように思っていた感じで結構です。

手島部会長 11ページの「美里町の主要課題」の3つにリンクしているということなんですか。

佐々木係長 はいそうです。

手島部会長 そこは分かりませんでした。ここは主要課題というところから来ているということが、分かるようにしていただけると、多分いいかなと。

佐々木係長 そうですね。

手島部会長 突然、字で「稼げるまち・・・」に行ってしまうので。例えば、言葉としてはお話の中で最終、「全体として」というところにあるんですけど、抽象的すぎるのではないかとということで、具体的にどうするのかというのでも出ていました。それとともに「産み育てやすいまちの実現」というのはどういうことで、「産み育て」とはどのように振り分けるのかというお話も出ていましたので、その辺の説明もお願いいたします。

佐々木係長 「産み育てやすいまちの実現」というところでございますけども、「産み育てやすい」これはですね、先ほどから人口の問題でも出しています。ただ単純に人口の問題はですね、簡単に申し上げますと、お父さんとお母さんが結婚して、お二人の子供がいないと人口は減っていきます。基本的にはただそれだけの話です。それで、今実際1.3人位ですね、お一人ちょっとしか生まれていないと。これではやはり人口が減っていくのは当たり前で、それを一人産んでいるお母さんまたはお父さん、育てているお父さんお母さん、お爺さんお婆さんにつきましても、一人よりは二人、二人よりは三人と増えるような環境作りが「産み育てやすいまちの実現」なのだろうと。ただ、そのためにはどうすると良いかというところでございますけれども、施設の充実も一つでしょう。ソフトの充実も一つでしょうということで、総合的に産み育てやすいまちを目指していきたいというようなところで、これだといいいものは、決して断言できるものはございませんけれども、全体的にですね、例えば町がですね、歩道が段差がなく、ベビーカーを押せる段差が無いような町であったりですね、そういったものも全部を含めて「産み育てやすいまち」だと思っております。

手島部会長 出産と子育てっていう・・・

佐々木係長 いわゆる悩み相談であったり、悩み相談窓口の充実であったりですね、妊婦さんの駆けつける場の拡充であったりというようなところが全部繋がってくるのかなというふうに思っております。

手島部会長 私たちのところでは、そこから次にということですね。「子どもを取り巻く学習環境については・・・」云々というところにくるんですけども、不登校に関するところまで入ってきますが、「産み育てやすい」を・・・

須田企画財政課長 繋がらないということですね。

手島部会長 申し訳ないです。逆にこう・・・

須田企画財政課長 教育も入れなくてはいけないかもしれませんね、この言葉にね。

- 佐々木委員 ぎりぎり押し込んだんじゃないの。
- 須田企画財政課長 産み育てやすい、そして教育もね。充実したということ・・・
- 佐々木委員 柱を一つ作ればね。解決されるのかなと。私はそう考えます。そうすると次の施策と、政策と施策が流れがいいんですよ。
- 手島部会長 先ほどの主要課題ですね。そこから人口ビジョンというところが、大きく取り上げられるというふうになれば、医療福祉という感じが入ってきて、この辺りも多分いろいろな提言が出るんじゃないかなと思っています。産み育てるところを今説明していただいたんですけども、この言葉が、産み育てという言葉があるんでしょうか。
- 佐々木係長 そうですね。定義的に正しいかどうかは分からないんですけど、使われ始めてきてはおります。産み育てやすいと。産み育てる環境とか。それで使った訳でありますけど、誤解を与えるのであれば、案の段階ですので、ここは変えても良いかなと。
- 手島部会長 若い人たちは理解できるということですね。
- 羽生委員 こちらの文言だと「育て」にしか触れてないのかと「産む」となると病院であったり関係してくると思うんですけど。
- 佐々木係長 そこでですね、今おっしゃったとおりですね、「産み育て」で両方とも今度は医療の部分であったり、福祉の部分であったり、児童の部分であったりということで、それが縦割りになってしまうんですね、結局は。全部含めた形で切れ目のない支援、流れの中で・・・検討課題として・・・
- 佐々木委員 さっきの教育の柱を別に作ればいいのではないかとということだったんですが、先ほどの美里町総合計画案の11ページでは、「子育て・教育」となってるんですね。だから21ページには「産み育てやすいまちの実現」では、メインは子育てのほうがメインになって来るかなと。だからそういうことから考えると、教育というのも一つの柱と。項目としては主要課題が・・・、主要課題じゃなくて、20ページの基本構想にもってきて、大きな柱が4本になるだろうと。そういうふうを考えました。
- 手島部会長 これは主要課題のところとリンクしているのであれば、主要課題を逆に、産業振興・雇用対策でサブタイトルとか、そんなところで例えば「稼げるまちの実現」とか入れてもらったほうが。そうすると同じものなんだと。前で言っていることと、基本構想の中で言っていることは。そこからなんですけれども、「取り組みの方向性」ということになると思います。「21ページと連動していないのはなぜか？(関連性・整合性)」というところと「分かりやすく図解しては？(三次元の図)」といことで、例えば1番に先ほどの産業振興・雇用対策ということで、「稼げるまちの実現」がきていて、こちらが1番に「生涯をとして学び楽しむまちづくり」というところなので、これは多分政策の順番で入れたんでしょうかね。ただこの順番で来ると、重点項目の順番にいかないと、見たときに、あれ何で1番がどこにリンクしてるのかということですね。この場合だと「(3)力強い産業がいきづくまちづくり」が最初に来た方が見やすいんじゃないかというようなお話があったので、その辺をちょっとお話ししていただければと思います。また先ほどからの次元の分かりやすく図解をしていただけないかというお話もありますので、その辺を説明方々お願いいたします。

- 佐々木係長 22 ページのですね、例えば「生涯を通して学び楽しむまちづくり」と……。それで分類はそれぞれ教育、福祉、産業、生活、行財政というふうに並ばせていただきました。その順番はあまり変えずにですね、それが31 ページの基本方針というところがございます。ページを縦にして並べてみていただければ、これの第1章の基本方針とこちらの方向性が軸的に方向性と基本方針が合わなかったようですね。同じ文言を書いております……。
- 手島部会長 取り組みの方向性の内容というよりは、前のページとか前段から来ている順番からいったら、これが多分前ページの1 から来たら「(3) 力強い産業が……」がきて、次に来るのが「(4) 暮らしやすさ……」そして、3として「生涯を通して学び……」あと「健やかで安心なまちづくり」という順番ではないかと。まず前ページの……
- 須田企画財政課長 並びがね。
- 手島部会長 そうですね。これに対しての方向性だと思うので、稼げる、これが例えば横ページになっていれば「稼げるまちの実現」のところに「力強い産業がいきづつまちづくり」が横並びのような形になると思うんですね。なので読んでいったときに……。これが達成に向けてというところと前段の主要課題というところもリンクしているので、ここともズレが生じないように。そうすると全体が今までの疑問は全部解決していきます。これとこれとこれが同じものだったんだと、多分皆さん理解できたと思います。
- 須田企画財政課長 部会長さんがお話ししたところが、9年前に作った構成、まさにその通りなのです。今回あえて総花的だった点を克服するために、絞って落としてるんですね。それを全面的に出してきているために今のような形で、後ろに5つありながら前には4つしかなく、繋がりが無いのは確かです。これが見にくい分かりにくいというのであれば、前に戻した形で主要課題が5つあって、将来像も5つ書かれていて、方向性も5つで同じ並びであれば筋が通るんだね。
- 手島部会長 そうすると私たちの一番の問題であった教育文化の柱ができるんじゃないかと思っています。
- 須田企画財政課長 それでは一度、案を作ってみますかね。皆さんに見ていただいて、これで良いとなれば、部会長さんから次の会議で話をしてもらって、このような案で提案したいんですけどもという形でもっていったらどうでしょうかね。
- 手島部会長 はい、ありがとうございます。よろしくお願いします。
- 須田企画財政課長 文言をすぐに書けなくても、並び方をそのような並び方にしようかと。ただ、これは我々が意図した重点化というか絞った総花的でない分かりやすいものということに関しては、バックして後退してしまいますけども。
- 佐々木係長 一つ心配な点を言いますと、政策があって施策があって、その施策に担当課が決まっているんです。あまり紐付けすると、また縦割りになってしまうんですね。あまり紐付けしてしますと、うちは関係ないんだと……
- 手島部会長 でも先ほど出たところで……
- 佐々木係長 その辺心配なところが若干ありますので、それだけちょっと分かっていたらいいかな。

手島部会長 ただ、今回は立体的で、ここの各施策がリンクしているんだよと、子育て1つ。多分今度はスポーツ省なんかは、すごいスポーツの関係で体力づくりとレクリエーションとスポーツというところが、多分融合してくるんですけど、そういったところで、すごく多分管轄、経産省とも多分連携を取ると言っているの、そういったところのリンクがすごい変わってくると思うんですね。なので横並びという意味では関係ないということではなく、わざわざプレッシャー、計画の推進というところに書いてありますので、頑張っていたきたいなと思います。

須田企画財政課長 分かりました。

手島部会長 最後が23ページですね。土地の利用というところで、前回、前回というか前期総合計画のなかではかなり構想というものがしっかりと書いてあります。ここが記載されていないということは、今から記載することがあるのか、これも大きなところではないのかなと思いましたが。

佐々木係長 ここについてはですね、ただ単純に前のとおり載せるのは簡単な話なんです。それで、もう一つ考えたんですけども、しかしながらですね、これからの人口減少であったり行政の効率化の部分であったりといったところで、町全体として住居ゾーンであったり、学習ゾーンであったり、医療ゾーンであったり、商業ゾーンであったりというようなですね、これから長い目で、5年後だけじゃないです。100年後くらいを見た話して、そういった集約も必要になってくると国では謳われていまして、この戦略の中でも考えてもいいよというようなこともあります。それで5年10年ではなくてですね、今の現在の土地利用をここに載せようと思っておりました。しかしながらそれに一言ですね、例えば、そういう土地利用のやり方って今後考える必要がありますよねっていうような一言があってもいいのかなと。例えば住民バスです。今後ですよ、100年後50年後、私は生きてないかも知れませんが、それぞれのゾーンをバスで繋ぎながら皆さんの生活が効率よく回るような仕組みを今後作っていかねばならないのかなというところを、それを絶対やるわけじゃないです。そのことが必要かどうかを住民の皆さんで話してもらおうくらいの程度になりますけども、そういった記入の仕方になるのかなと考えていました。

須田企画財政課長 大きく土地利用は今からとは変わらないでしょう。しかし人口が減ってくるので、今お話ししたようにコンパクトシティのような形で集約化というものが出てくるだろうと。その検討に向かうしかないんだよね。

佐々木係長 それに対して、そういう考え方があるよというような、多分ここにいらっしゃる方みんなお亡くなりになってるとおもいますが、そういう土地利用も考えなくてはならないんだよというところで、ひょっとすると教育部門で学校の再編であったり、児童公園がたくさん集まっているようなゾーンであったりというような夢物語的なことを考えなくてはいけない時期に来てますよというような、スタート的なものを書かなくてはいけないなと思っています。

手島部会長 今まで佐々木係長さんがお話ししたのは、入れた方が良いよと言っていたんですが「みんな亡くなってます。」というところは今回不採択で。

佐々木係長 そもそも要らないという話もあるんですけど。

手島部会長 ただ産業振興とかそういったところも関与してくるのかなあと。具体的なものは無いみたいなんですけど、逆に具体的なものも知りたいかなとか。こちらのほうは多分策定員会のほうとかまだ検討中のような感じが覗えますので、保留にしたいと思います。こちらのほうは何らかの形ができて、

またそれが教育のゾーンとかできたら関わってきますので、学校安全とかそういったところにいるんなところで関わってきますので、その辺が上がってきてからではないかと思います。

佐々木係長

ここにですね、例えば教育ゾーン、商業ゾーンを設定することすらまだできません。そういう方向に今後動いていく、もしくはこういうゾーンの必要なものが必要でしょうかとか必要じゃないんでしょうとか長い検討が必要でその事しか書けないんですね実際は。皆さんの家などという財産もありますので、簡単にここを出て行って集まってくださいと、ここ10年20年の話ではありませんので、そのくらいの意識が必要かもしれませんという事くらいしか書けないと思います。逃げるようになるかもしれませんけども、そういった書き方になります。

手島部会長

それでは次に行きたいと思います。基本計画、24ページになります。この中で「重点プロジェクトという言葉が突然出てくるが説明が必要ではないでしょうか？」そして「重点プロジェクトとは何でしょうか？」「重点が分かりづらいが、どのくらいのスパンでやるものなのでしょうか？」ということが出ています。

佐々木係長

重点プロジェクトという言葉が突然ここで出てきています。その点につきましては、今後加筆してまいりますけれども、何かと申しますと、今までは目につく部分だけやってきたというような状況でございます。町は、来年度、再来年度に町は何をやっているんですかと言ったときに、今町はこれとこれとこれに重点を置いてやっているらしいよというような取り組みが見れるような優先順位の施策を取っていきこうというような、メリハリをつけた施策にしていこうというふうに考えておりました。これも文言が別になっていて大変申し訳なかったんですけども、産業活性化というのは町の産業振興のために必要なプロジェクトであろうと、住環境向上というのはこれは人口対策であったり、こちらに住まいを移そうという人が出てこないかというところの期待を込めましての住環境向上プロジェクトとしています。それで教育につきましては先ほどからありますように、子育て、また子供たちを取り囲む環境の整備というところの大きなプロジェクトとして、ここは優先的にやっていきこうといったところで、他はやらないという訳ではないのですけれども、ここは明確に優先的にやっていきこうというところのプロジェクトという形で取らせていただきました。優先事業の一覧と書けばそれまでなんですけれども・・・

手島部会長

書いてもらえば分かりやすいですね。そのほうが。プロジェクトチームを作って、新たにこれはまた別のものとして動くのかなと感じますので。学校関係にいくと子育て・教育プロジェクトという中で、こちらの中で施策とかやっていく部分、それとわざわざオモテに出してプロジェクトを組んでいくっていう・・・

佐々木係長

プロジェクトの進行度合いにつきましても、例えば産業活性化であれば、今戦略会議みたいなものがあってその中でもやっています。それで動き出して住環境向上について専門的に進めて行く必要があるという部分にはプロジェクトチームを作りましょうと、子育て・教育でもプロジェクトチームを作りましょうというやり方もあるかもしれません。

須田企画財政課長

作って協議してもらっても良いかもしれませんね。

手島部会長

重点プロジェクトに関する説明を、やっぱりここでは欲しいかなと思いますね。

須田企画財政課長

分かりました。

- 手島部会長 この辺が前段から読んでいくと、いろいろと分からなくなっていくところですね。これが同じ方向だっていうのは今日の話でしか分からなかったと思います。
- 須田企画財政課長 優先政策だということで、優先的にやっていくことだということですね。
- 手島部会長 そう書いてもらったほうが良いですね。最優先課題とか。ただ、その中でどのくらいのスパンでやるものなのかっていう質問もありますので。
- 佐々木係長 これはですね、今回の計画通り5年間というスパンです。
- 手島部会長 これも多分違うものと捉えているからでしょうね。質問が。
- 佐々木係長 これで内容を見ながら、主要課題がどれくらい埋まっていったかというところで、5年後はちょっと分かりませんが、ひょっとすると別のプロジェクトになるかもしれませんけれども、今のところは、今回はプロジェクトということで柱を立てて行こうと思ったところです。
- 手島部会長 主要課題と達成に向けてのところと重点プロジェクトがまた一致しないとズレが出てくるので。
- 佐々木係長 課題に対してのプロジェクトというものを見えるようにします。
- 手島部会長 多分その中で先ほど言っていた医療というところが多分出てくるとは思いますね。ここが足並みが揃うと分かりやすいです。この目標に向かってこれをやるためにこうやっていくよと、その中の1つでプロジェクトをやっていきますというところなんではないでしょうか。
- 須田企画財政課長 そうじゃなくて、5つの分野があって、この分野を優先してやるよということですから、全部5つ出てくるんじゃないかと、5つのうち、この3つの分野は優先しますよという形なので、5つの分野と必ず一致するわけではないと。しかし前に表現している課題のところと一致する形ですね。
- 手島部会長 分かりました。よろしいでしょうか。
では「優先プロジェクト」というところに入りたいと思います。「稼ぐ力」を生み出し、賑わいを作ります。の「稼ぐ力」と賑わいの関わり合いは？」「事業所、従業員の減少の現状からは、目覚ましく明るい将来像は見えてこないのだが、どのように考えているのか？」というところをお願いします。
- 須田企画財政課長 「稼ぐ力」はイメージ的には町で進めている産業活性化戦略施設とか、町に人が集まる場所、その集まる場所で子供が生まれて人が賑わうというイメージで、それをこの5年間で作っていきたいという形なんです。それを将来像を回る形で表現しているということですかね。町長一人という訳ではないんですけども、マニフェストというか公約にも挙げていますので、これをこの5年間で実現していくと。こちらをプロジェクト化して進めて行くという考えであります。交流人口という人がいっぱい集まって、そこで仕事ができるという感じですかね。
- 手島部会長 大丈夫でしょうか。ただこの文章だけ、「稼ぐ力」を生み出し、賑わいを作ります。と言ったときに、要は賑わいとは、これは人の集まりという考えですか。
- 佐々木係長 今ですね、農業をされている方は大変頑張っている感じがします。それで農業の生産を行いなが

ら、またはハウスの中で行いながら、一生懸命、産業振興のために頑張っている方もいらっしゃいます。それはそれで一つの「稼ぐ力」です。それにプラス新たな「稼ぐ力」となると、それに多角的要素、多様な要素を入れまして、複合的農家、農家体験とか現場で買える果物だったりとか、そういった様々な方向性を新しく持ってきて、そこに新しい稼ぎ方を作る、新しい稼ぎ方の力が付いてくると、そこにお客さんとして交流が入ってくると。そういったもので全体的に地域が明るくなる、もしくはそこにひょっとすると、おばちゃんたちのパートが少し必要になってくるかもしれないと、そういった全体的な人の交流、物の交流それに対しての、お客さんが来ての賑わいだったり、それに対する雇用が生まれると、そういったところの稼ぐ力、新しい稼ぐ力というふうに考えていただきたいと思います。

羽生委員 もう少し説明であったり、目的もちょっと少し詳しくないと、これだけではちょっと理解しづら
いかなと。

手島部会長 目的に向かって動くと思うので、詳しくても良いかもしれませんがね。25ページですね。

佐々木係長 例えばプロジェクトでございます。このプロジェクトはただ単に新しい取り組みを始めるか
というそういう訳ではありません。プロジェクトで網羅している部分につきましては、26ペ
ージにありますけども、関連施策の21、22、23、25、27、28、29と、これを利用し
ながら重点プロジェクトを果たされていくというようなことで、例えば施策21というのが82ペ
ージになりますけども、82ページに、農業に新しいヒトの流れを作りますであったりとか、83
ページで新たな作目を作りますよとか、その次ですね、86ページには、産物からの広がりを作
りますよとか、これらの積み上げでプロジェクトがなされますよというような積み上げにしてい
るつもりであります。ですのでプロジェクトだからといって、新しい取り組みに動き出すというこ
とはなくて、1個1個の施策が十分であれば、この施策のピラミッドでこのプロジェクトは成り立
ているという仕組みとしているつもりでございます。

羽生委員 であれば、どこに関連しているかとか・・・

手島部会長 今後の展開と今の関連施策というところなんでしょうね。

佐々木係長 これが確実に回りだせば、このプロジェクトは果たされるという作りです。

羽生委員 これは出来上がったものは町民の方やいろいろな方が見るものですよね。今のこの状態だと、専
門的な知識であったり、そういうものがないと理解しづらい。全体的にです。説明であったり、噛
み砕いた言い方をしていただいたほうが・・・

手島部会長 先ほどの賑わいのところで、人、物の交流という表現をしていたので、そのような人とか物が
行き交いますよとか、お客さん呼びますよとかっていう表現はわかりますけれども、やっぱり賑わ
いという単語からは、なかなか難しいかもしれないですね。

羽生委員 すみません、読む力が無いだけかもしれませんが・・・

佐々木委員 プロジェクトの押さえ方については、重点も重点も重点も同じなので、概括的にこうい
うことをするんですよということを、5、6行にまとめて前段に入れていただくと、読んでみて先
ほどの、例えば重点のプロジェクトだと、関連施策のの施策と関わりを持たせてにらみながら、

目的に近づいていくものです、という捉え方ができると思います。

- 手島部会長 質問内容のところで、「事業所従業員の減少の現状からは、目覚ましく明るい将来像は見えてこないのだが、どのように考えているのか？」というところもお願いします。103の事業所が減少しました。1,079人の従業員が減少しています。というところから明るい未来は、明るい将来像はですね。その辺はどのように考えていますかと。プロジェクト ですね。現状と課題の1行目から。
- 須田企画財政課長 従業員が減っているという現状で、明るい将来は見えてこないということですね。でどうするのということかな。
- 手島部会長 最初、この「産業が発展し・・・」というところに謳っているので・・・
- 須田企画財政課長 将来像で、なぜこう言えるのかといことかな。そうですね、このような現状だからこそ、目標を高く持って産業を発展させていきたいという思いなんだけどもね。このとおり従業員数も減っているし・・・。将来像は願望もあるんですね。こういう状況、課題だからこうして行きたいという。
- 佐々木係長 課題のところで減少は書いてあって・・・
- 須田企画財政課長 将来像で「産業が発展し・・・」と書いてあるけれども・・・
- 手島部会長 発展するんでしょうかという・・・
- 須田企画財政課長 実現性とか、何て言うんでしょうか・・・
- 佐々木係長 そうですね、現実には現実で真摯に受け止めなければなりませんよと。これは現状と課題で、これからこういう現状でこれをクリアしなければなりませんよというような課題の書き方になっています。それで、減少している状態を放っといういいかという、放っておいてはダメなんですよ、もちろん。そのためにですね、稼ぐ力を生み出しというところなんですけども、それがいわゆるプロジェクトとしての展開方針であるわけではなくて、ここでは課題を申し上げて、プロジェクトを達成するためには、どういったものが必要なんですかということが、次の関連施策の21や22などの中にちりばめられているというように考えていただければ良いと思います。
- 青木委員 あくまで現状と課題ということですね、ここは。この次から今後の展開と。
- 佐々木係長 プロジェクトの展開は特には無いんです。それぞれの施策の展開を積み上げて、このプロジェクトが完成しているということです。
- 青木委員 明るい現状は無いということですね。今の段階としてはということですね。
- 羽生委員 ちなみに、今後の展開で「作ります」とか「進めます」と全部言いきっているんですけども、言い切っているんですか。
- 佐々木係長 そうですね。町の施策として作るときにですね、「検討します」ではちょっと・・・

- 羽生委員 最後だけ「努めます」にはなっていますが、「します」とか「やります」とか、全部良い切ってしまうと、できなかったらという場合で、あとから突かれる部分を作ってしまうのはどうかと。
- 佐々木係長 今後の展開ということで、例えば「農業に新しいヒトの流れをつくります」というのは、関連施策21の目的になっているんです。それを持ってきてるんですが、関連施策21の中身というのが、そもそも「農業の新しいヒトの流れをつくります」ということなんですね。それをこっちに持ってきているということで、不必要と言えばこれは不必要かもしれませんが、「努力します」ではちょっと弱いんですね。
- 羽生委員 これ全体のページに関係するんですけど、現状と課題が出てそれに対する対策だったり展開というのがその後にくいて関連施策とかきてますけど、どれに対してかというのがすごく見づらいんですね。文章全部読んで探さないで「あ、これのことかな」「これに関係するのかな」ということしか読み取れないので、もう少し、この課題に対してこの展開だとか施策だというような分かりやすい書き方をしていただけませんかというのが・・
- 佐々木係長 計画書の書き方そのものの問題なんですけども、できれば参考にいろいろなところを見ていただきたいと思います。例えば35ページに現状と課題がありまして、ここには「図書、視聴覚資料を収集・提供し、図書館の内容を充実させることで利用者は様々な情報を得ています。」というのが現状で、次にこれに対してが一番最初の、施策の展開の一番最初の「図書、視聴覚資料の収集を図りながら、デジタル資料やデータベースを活用し、利用者の様々なニーズに応えていきます。」というのがブレークダウンで落ちてきているんです。1個目に対して1個目と。今羽生さんが言っているように分かりやすくということなんですけど、そうすると、「図書、視聴覚資料を収集・提供し・・・得ています。」とあって、次に矢印を引いて「図書、視聴覚資料の収集を図りながら、・・・に応えていきます。」と書いていきますと、間に挟んでいくことで、どれが展開でどれが現状でどれが今後の方針なのということが、ゴチャゴチャになってしまうんですね。なので一括り一括りにまとめているつもりなんです。
- 羽生委員 であれば、現状と課題の1番目に とつけて、それに対して施策の展開で とかというような書き方、表現の仕方の問題だと思うんですけども。
- 佐々木係長 番号を付けるのは大変良い事なんです。ですが、よくあることなんですけど、人によっては「これは1番ではないんだ」と、「なんでこれが1番なんだ」と言うんです。「なんで1番最初じゃないんだ」と。「番号を付けたということは、これは1番にやるということなんだらう」となるんです。
- 羽生委員 その書き方はもちろんお任せしますが、現状では見づらいということをご理解いただきたいなど。
- 佐々木係長 この辺はなかなか難しい所なんです。番号を付けると順位とになってしまうんですね。最初は番号で書いたんです。ですけど1個の課題に対して展開が2個も3個もあるときがあるんですね。ですから の枝番1かな枝番2かなとやっていると、これは順位と捉えられることがあるんです。
- 羽生委員 数字じゃなく「アイウエオ」でも「いろは」でもなんでもいいんですけども・・
- 青木委員 計画書でこういう表はそぐわないんでしょうか、形としては。例えば現状と課題をここに書いて、こっちにその展開をと。

- 佐々木係長 横長だったら良いんですけどね。
- 青木委員 縦だと見づらくなってしまいうんですね、横長だとね。
- 羽生委員 あとはやりようだと思うんですが、現状では探さないと分からないということで、非常に見づらいものだけのことだけ……。どう書くのと言われてたら何とも言えないんですが。
- 手島部会長 では次に行きたいと思います。
「重点プロジェクト」、「ベットタウンの要素を持っていると、なぜ雇用の創出が必要になるのか？」というところ、何行目でしょうか、真ん中あたりですね。「本町はベットタウンの要素も持ち合わせていることから……」というところですけども、これについてお願いします。
- 佐々木係長 そうですね、すみません書き振りの問題ですね。書き振りを考えます。
- 須田企画財政課長 ここで言いたいのは、後段の他の地域へ通勤されている方が転出しない取り組みを言いたいんですけどね。その前にそれだけでは足りないので前段に「町内に雇用の創出を図るとともに」と。後ろの方が強く言いたかったんですけどね。並列に並んでしまったので、確かに前の……
- 佐々木係長 ちょっと浮いているかもしれませんね。
- 手島部会長 文章自体が多分……
- 須田企画財政課長 町内における雇用の創出を図るとともに、町はベットタウンになっているので、他の地域へ通勤されている方が転出しないようにとすれば良かったんですけどね。そのように直さなくてはいけませんね。
- 手島部会長 そうですね。
では、重点プロジェクトの にまいりたいと思います。「学校教育は「知・徳・体」がバランスよく満たされて形を作っていくのだが、「体」部分がかすんでいて展開策には見えてこないのだが、それはなぜか？」「顔が見える」地域を形成するとはどういうことか？」というところをお願いします。それは学校教育の内容だと思うんですけども、教育と言ったときにはバランスよくというところで……。
- 青木委員 体力の向上とかそういった部分が見えてこないということですよ。
- 手島部会長 中身に入っていっただけですけども、宮城県とかの体格が上位で体力、学力は言ったところで、体力というか運動能力ですね。運動能力と学力っていうのはだいぶ徹底しているようなので。秋田とかがすごく優秀ということは聞いてますね。
- 佐々木係長 これはすみません、私どもの不勉強でございます。部会としてご意見をいただければ、専門の意見、部会の意見として、素直に直させていただきます。「顔が見える」というところでございますけれども、もちろんですね、今はやはり顔が見えないというか、歩いている子供が分からない、どこのおじさんか分からないような地域になっているというところで、それは子供たちにとって住みよい町なのかといったところが一つでございます。それで昨今の防犯ビデオで歩いているところだけ見つかって、その後亡くなっている子供とかですね、そういった部分は、地域の安全が子供た

ちにとって一番大切であろうといったところで、歩きながらおじいさん、おばあさん、おじさん、おばさんに「こんにちは」「おはよう」「今帰ってきたのか」というような地域を作るとするのが非常に大事なことだと思います。これは当たり前の事なんですけどできていないんですね。そのことが「顔が見える」とういような言い方をしています。

手島部会長 一般的に顔が見える地域という言葉で分かりますか。

佐々木係長 私は見えると思いますが、もし見えなければ、ここに注釈を入れたいと思います。

羽生委員 もうちょっと別の言葉があるのかなと。

手島部会長 この文章で行くと、家庭だけでなく子供たちの顔が見える地域を、学校、家庭だけではなく。今のだと歩いている子供たちがいないとか知らない人たちが多いということで、地域コミュニティとかそちらのほうからもあるのかなと思いつつ、ただ子供たちと顔が見える地域を形成するという言葉が理解が難しいような気がします。

佐々木係長 今言ったのは、そのままオモテに出せばいいんです。おじさんとおばちゃんの顔が知らない、どうのこうのどうのこうのと。それを一言で短文化したのが「顔が見える地域」と書いたんですけども、分からないのであれば注釈をつけますし、この文言をそのまま使ってはダメだということであれば、ちょっと長い文章になってしまいますけれども、「地域コミュニティが希薄であることによつて今子供たちは危機にさらされています・・・」といった長い文章になるとと思いますが、そういった表現になるのかなと思います。

手島部会長 その方が分かりやすいです。

残り「全体として」というところですね。先ほどの文章の表現上はお話が出ていましたので、具体的なところ、「全体的に抽象的すぎるのでは？」とか「具体的にどうするのか、どうしようとしているのかを書いては？」というところは、たぶんこれが方向性が一貫していると読み取れなかったところもあるかなって思っていました。その辺が精査されるとどうしようとしているのかが読み取れるのかなと思います。「何々に取り組みます」「何々しようと思います」「何々を努力します」という言い方ばかりでよいのか？」というところは、先ほどお話もありましたので、こちらのほうは決定ではないんでしょうけど、変えられないということなんでしょうか、先ほどの話だと。

佐々木係長 変えるのはいいんですけど、結局何をやるんだという話になって来るんだと思いますが、5年間で努力しますと言ったときに、住民の方々の感情はどうなのかなというところがあるんですけど、その辺の整合は図る必要があるのかなと思います。努力しますというような中身であれば、確かに努力しますと書きます。検討しますという中身であれば確かに検討しますと。その辺を考えていただいて、繋がらないでしょとなれば、繋げるように努力しますというような書き振りを、ご意見いただければそのようにしたいと思います。

手島部会長 ありがとうございます。

では次に行きたいと思います。「施策を絞ったのは、内容が何で、どのような課題があって、どのような形になったのか？」とか、下もですね、「(例えば)手順を踏まえて、反省点や課題、国の課題等を組み込んで照らし合わせながら考えて絞ったものなのか？」というところですね。こちらのほうは第2回目で渡された資料でしょうか。第2回でお渡しいただいた資料3になります。政策

施策の対比表というところから、例えばなんですけれども現在の施策1というのは、前回の施策1、2、3及び12と13という形になっています。この辺をどのようなことでこのような形になったかというところをちょっと説明していただければと思います。

佐々木係長

これについてはですね、似通ったような業務や整合できる業務、業務の中ですでになくす業務とといったところで、施策を統合していったという形になります。例えば施策4、今までですと図書館資料と情報提供の充実、施策5読書活動の推進ということで、わざわざ分けていたんですね。それで図書館としての資料を集める事業と、図書館を運営する事業ということで分けていたんですけども、一般の住民の方々からすると集める、読ませるを特に分けなくても良いんじゃないかというような判断中で、いわゆる一つの図書館の事業として一つのまとめさせていただいた経緯でございますので、一つの取り組みに対しては、おおよそ一つの取り組みということで施策の統合作業をさせていただいたということでございます。

手島部会長

内容的には反省点や課題、国の課題等を組み込んで照らし合わせたのですかということも出ています。

佐々木係長

内容につきましても、確実に落としているものはほぼございません。すべてとこかの施策の中に入っていますし、それで今回の施策調書ですか厚い冊子ございますけども、あちらの中で最終の26年度の事業も終わりました、次期の計画に向けてということに向けてということで、今後は何々しなければいけませんよといったところが、計画書に響くような作りにはしております。その辺を読んでいただきながら、また抜けているような反省点がありましたら、そちらは響かせていただくということで結構なのかなと思っております。

手島部会長

たぶん具体的なところをたぶんお聞きしたいんだと思うんですけども、反省点や課題を照らし合わせたのかということで、例えば青少年の健全育成が1回目の資料の7番になると思うんですけども、第1章の生涯を通して学び楽しむまちづくりの政策別総括の政策3のところの一番下のところ「また、地域で青少年の育成に関わる団体及び組織との連携、健全育成の啓発活動などにも取り組んでいます。成果として目に見える物とはなっておりません。」なっていないんですけども、今回施策から外されていますといったところなんですけども、一つひとつなんですけども、経緯としてどうだったんだろうということが話が出ていましたので。

佐々木係長

その点につきましても、青少年育成につきましては、なかなか町で引っ張る部分もだんだん限界がきているのであろうと、地域の中で一緒にやるべきものがだんだん必要になってくるのであろうということで統合させていただいたということです。青少年育成についてはですね。

まちづくり推進課長

まちづくり推進課というのができて、新しいまちづくり推進課ということで、生涯学習課と体育振興課の併合という形がありまして、その中でまちづくりという大きな括りの中に入った場合に、地域或いは青少年の人材育成という部分と重なっている部分があったので、まちづくり推進課として取り組むべきものを絞らせていただきまして、地域の中で見て行こうかという組織的な背景等もあるということでご理解いただきたいと思っております。

手島部会長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。
残る全体としてなんですけれども、「施策の指標が決定していないのか分からないが、記載がない部分があるので、記載が必要ではないか」ということで、空欄が多いというのは、これは今から埋めていくんでしょうか、空欄のままではないですよ。全体に空欄でしているところが多いかと

思っていました。

佐々木係長 もちろん空欄のままではございません。担当課とお話ししながら詰めていく、もしくは担当課から提示があったものに対しての数字に対する真偽というところで、この案を作る時点で数字が固まっていなかったという点については大変申し訳なかったと思います。しかしながら、この数字の作り方も一緒に審議していただきながらと考えておりました。

手島部会長 分かりました。

佐々木係長 前の計画の時は、今数字に対する真偽はしていなかったはずですので、こちらについても審議していただければと考えております。

手島部会長 ありがとうございます。

最後は、「目的」と「現状」「課題」、「展開」の関連性が読み取りにくいので、整合性を図り、分かりやすい表現をしては」というところは先ほどお話ししていただきましたので、以上が今日の質問となります。皆さんそれ以外で質問等はございませんでしょうか。本日、企画財政課からわざわざお越しいただいているので、聞きたいことがあれば。

青木委員 私としては結構すっきりしました。ありがとうございました。

手島部会長 結局、表題が同じでも表現が違っていたので、違うものではないかという捉え方をしていた部分が多かったので、今日説明を受けて分かってきました。

須田企画財政課長 最初に申し上げましたけども、これで確定ではないので、どんどん意見を出していただいて、直すところがあれば直していきたいと思っております。

佐々木係長 大事なことなんですけど、今回の計画については今後5年間、今後25年間というのはもちろんあります。ただ、今審議いただいている内容は、28年度の事業計画、予算に載ることになります。それで、事業計画や28年度予算の策定が今月末頃から始まってしまいますので、せっかく皆さんにいろいろなご意見を言っていただいておりますので、来年度の事業予算に反映できるものは反映させてというようなことが絶対に必要ですし、皆さんそれぞれのお考えがありますので、沢山の提案だったりご意見をいただければ、28年度の予算から載せることができるということから、これからは有意義な検討をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

手島部会長 ありがとうございました。

議事1については終了といたします。カッコ2については次回に持っていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(はい、の声あり)

その他、何かありましたら・・・。無いようですので終了させていただきたいと思えます。

羽生委員 今日はお忙しい中、連休の真ん中の日曜日にお越しいただきありがとうございました。やっとな私どもも疑問解決したかと思えますので、今後は内容に入っていきたいと思えますので、お互いに話し合っってより良いものにしていきたいと思っております。今日はどうもありがとうございました。

審議終了

- 午後 0時40分 終了 -

上記会議内容に相違ないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員 教育文化部会 部会長

教育文化部会 委員